

# 決算説明会

## 2024年3月期 第3四半期

ミネベアミツミ株式会社

2024年2月2日

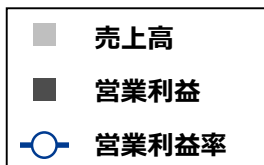
## 売上高は四半期として過去最高

(百万円)	2023年3月期	2024年3月期		前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	3Q	2Q	3Q		
売上高	371,424	379,747	381,207	+2.6%	+0.4%
営業利益	25,495	21,141	24,027	-5.8%	+13.7%
税引前利益	19,526	22,421	20,737	+6.2%	-7.5%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	12,271	15,981	14,754	+20.2%	-7.7%
基本的1株当たり 四半期利益 (円)	29.74	39.23	36.49	+22.7%	-7.0%

為替レート	2023年3月期 3Q	2024年3月期 2Q	2024年3月期 3Q
US\$	144.25円	142.47円	149.09円
ユーロ	143.93円	155.71円	159.31円
タイバーツ	3.89円	4.09円	4.15円
人民元	20.22円	19.76円	20.47円

# 売上高、営業利益、営業利益率

(10億円)



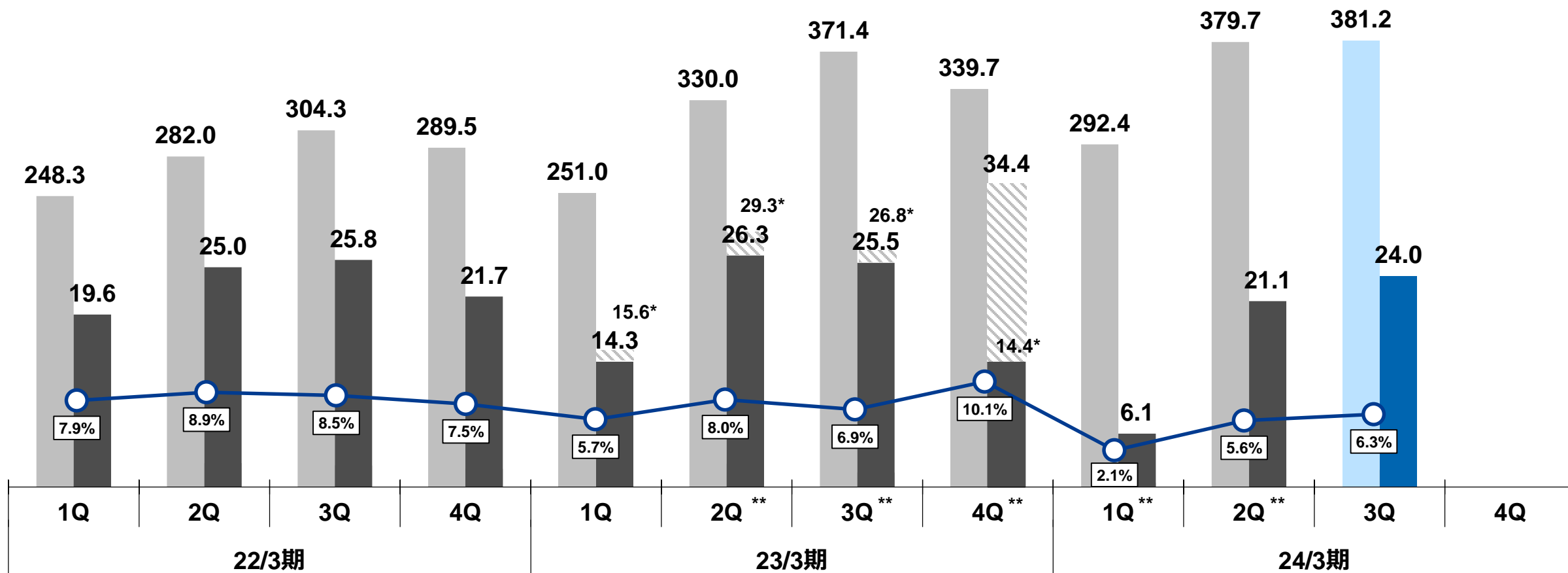
## 23/3期 特殊要因

	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
為替予約	△1.3	△3.0	△2.9	△1.5	△8.7
その他	-	-	1.7	21.5	23.2
合計	△1.3	△3.0	△1.3	20.0	14.5

\*特殊要因除く

\*\*①本多通信工業②ミネベアコネクトのPPA評価完了に伴い、営業利益を遡及修正

影響額は、23/3期2Q△63百万円(①)、3Q△937百万円(①・②)、4Q△51百万円(①・②)、24/3期1Q+6百万円(①・②)、2Q+31百万円(②)



# 3Q実績 11月時点業績予想からの差異

(10億円)

売上高

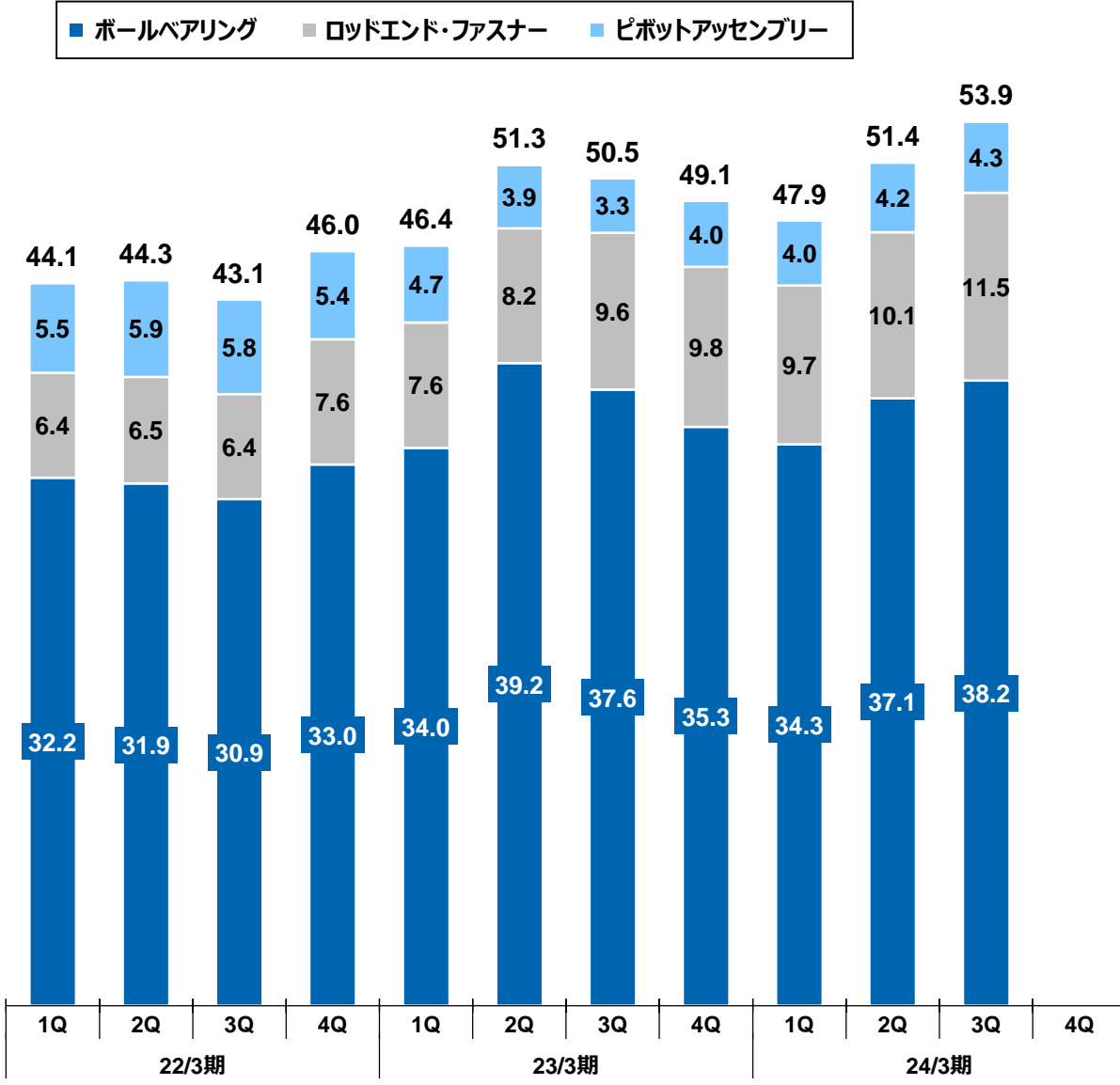


営業利益

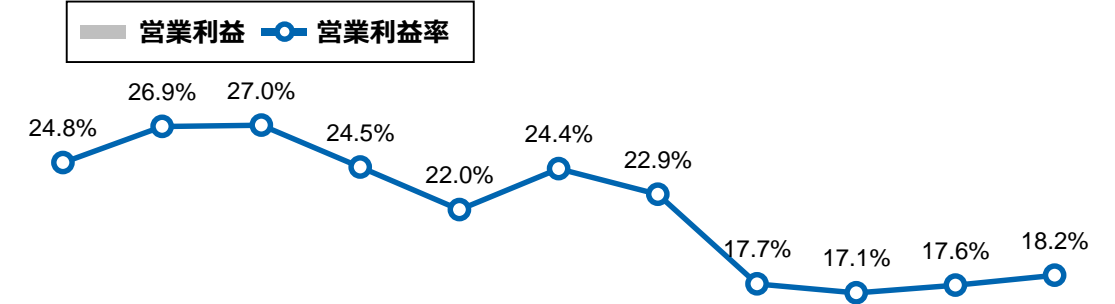


# プレジジョンテクノロジーズ セグメント (PT)

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)



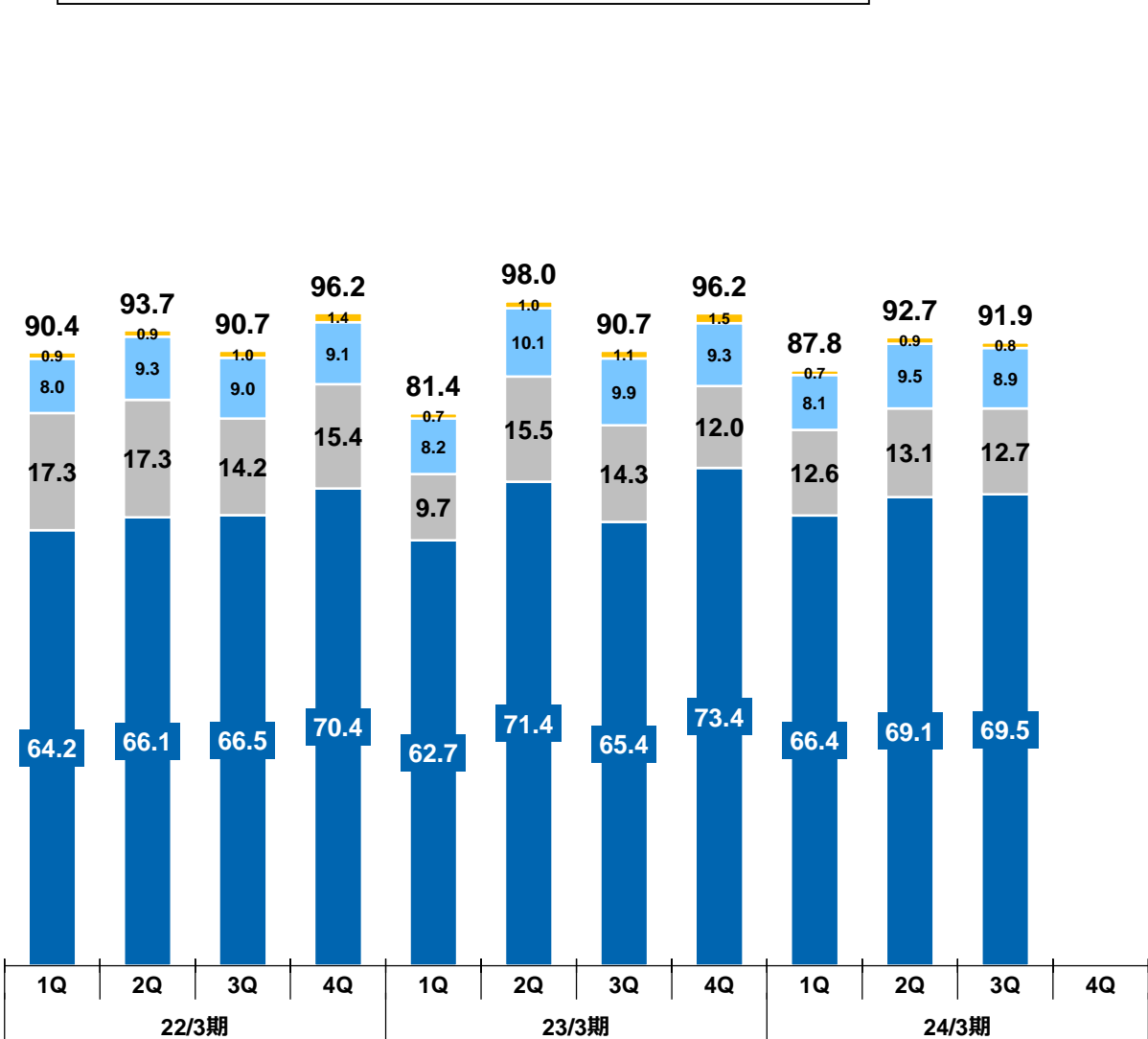
23/3期 特殊要因

	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
為替予約	△0.2	△0.3	△0.4	△0.2	△1.1
その他	-	-	-	△1.4	△1.4
合計	△0.2	△0.3	△0.4	△1.5	△2.4

# モーター・ライティング&センシング セグメント (MLS)

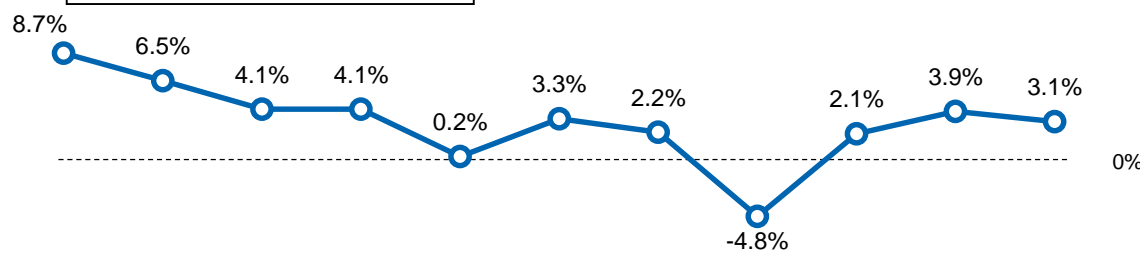
売上高 (10億円)

■ モーター ■ エレクトロデバイス ■ センシングデバイス ■ その他



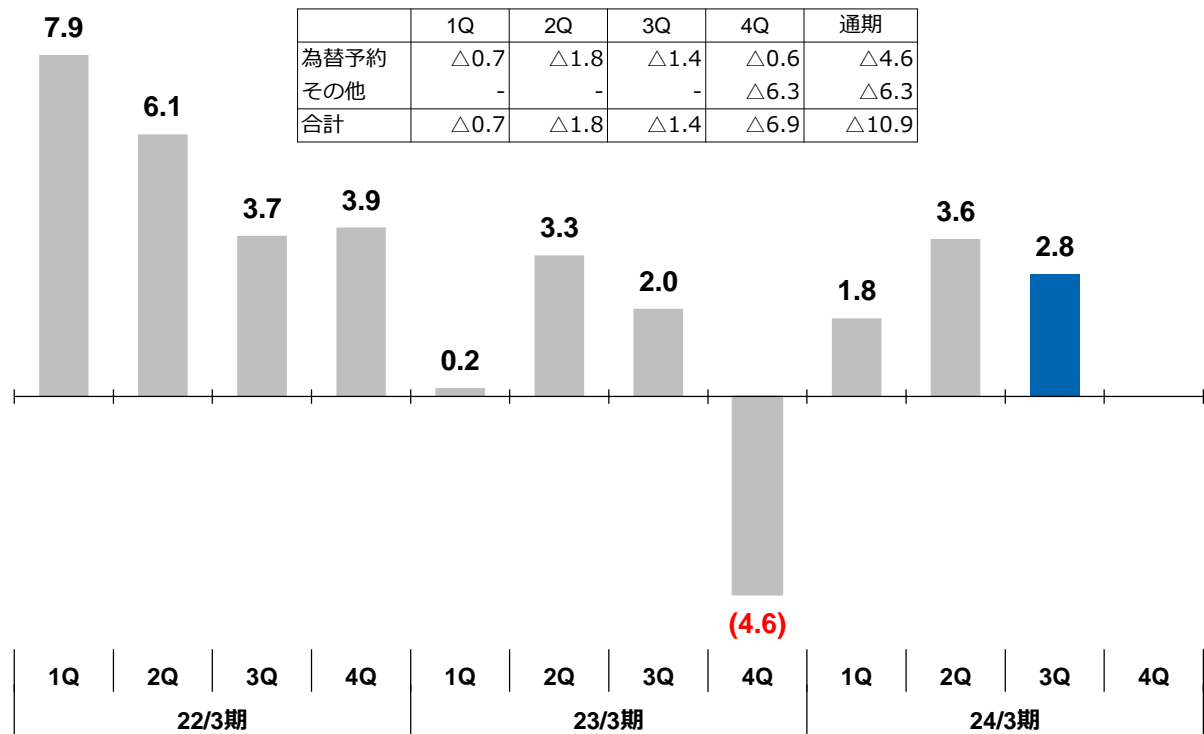
営業利益 (10億円)

■ 営業利益 ○ 営業利益率



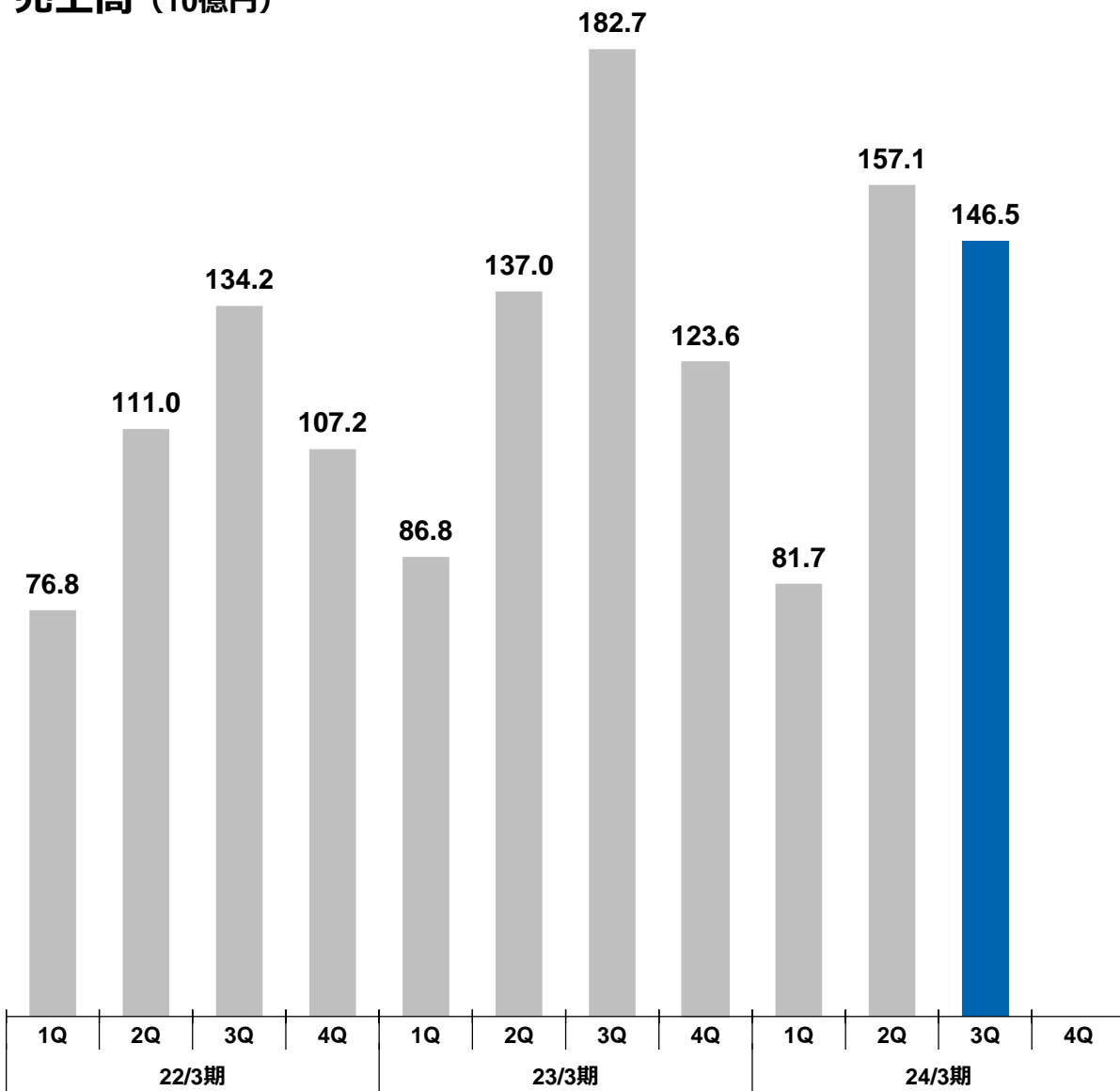
23/3期 特殊要因

	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
為替予約	△0.7	△1.8	△1.4	△0.6	△4.6
その他	-	-	-	△6.3	△6.3
合計	△0.7	△1.8	△1.4	△6.9	△10.9

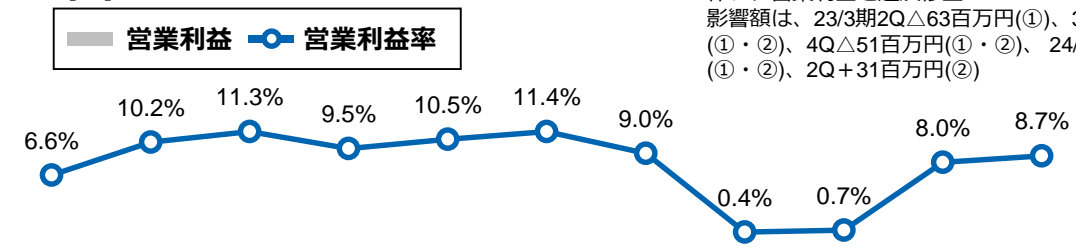


# セミコンダクタ&エレクトロニクス セグメント (SE)

売上高 (10億円)



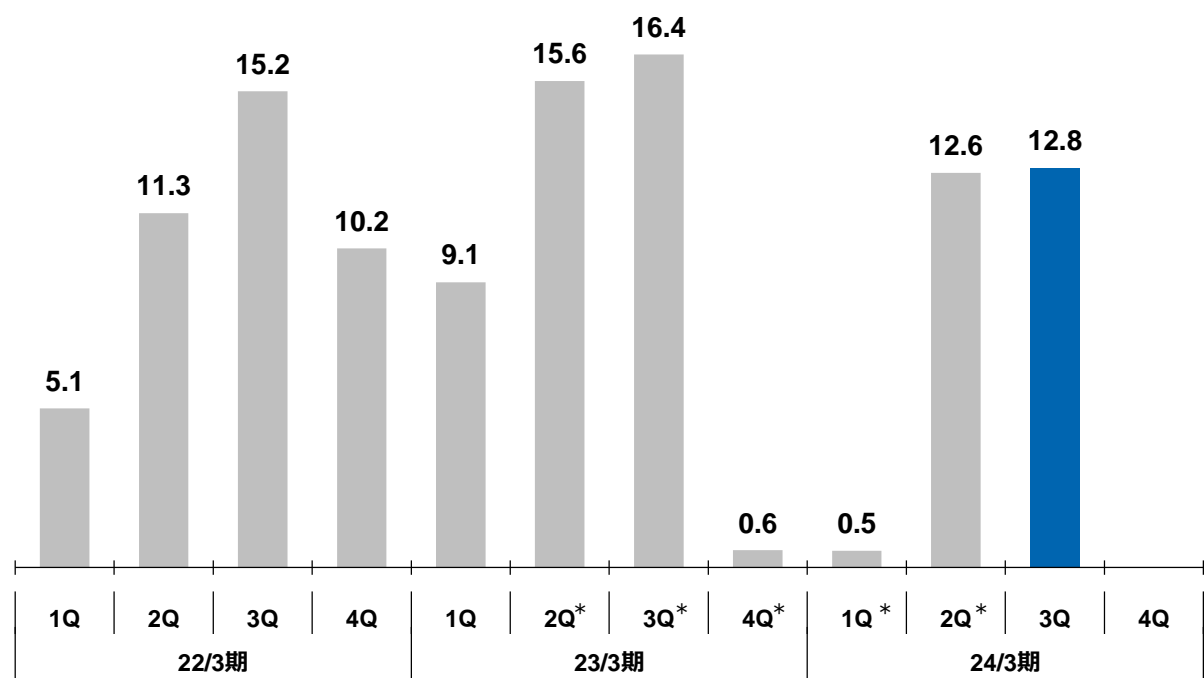
営業利益 (10億円)



\*①本多通信工業・②ミネベアコネクットのPPA評価完了に伴い、営業利益を遡及修正  
影響額は、23/3期2Q△63百万円(①)、3Q△937百万円(①・②)、4Q△51百万円(①・②)、24/3期1Q+6百万円(①・②)、2Q+31百万円(②)

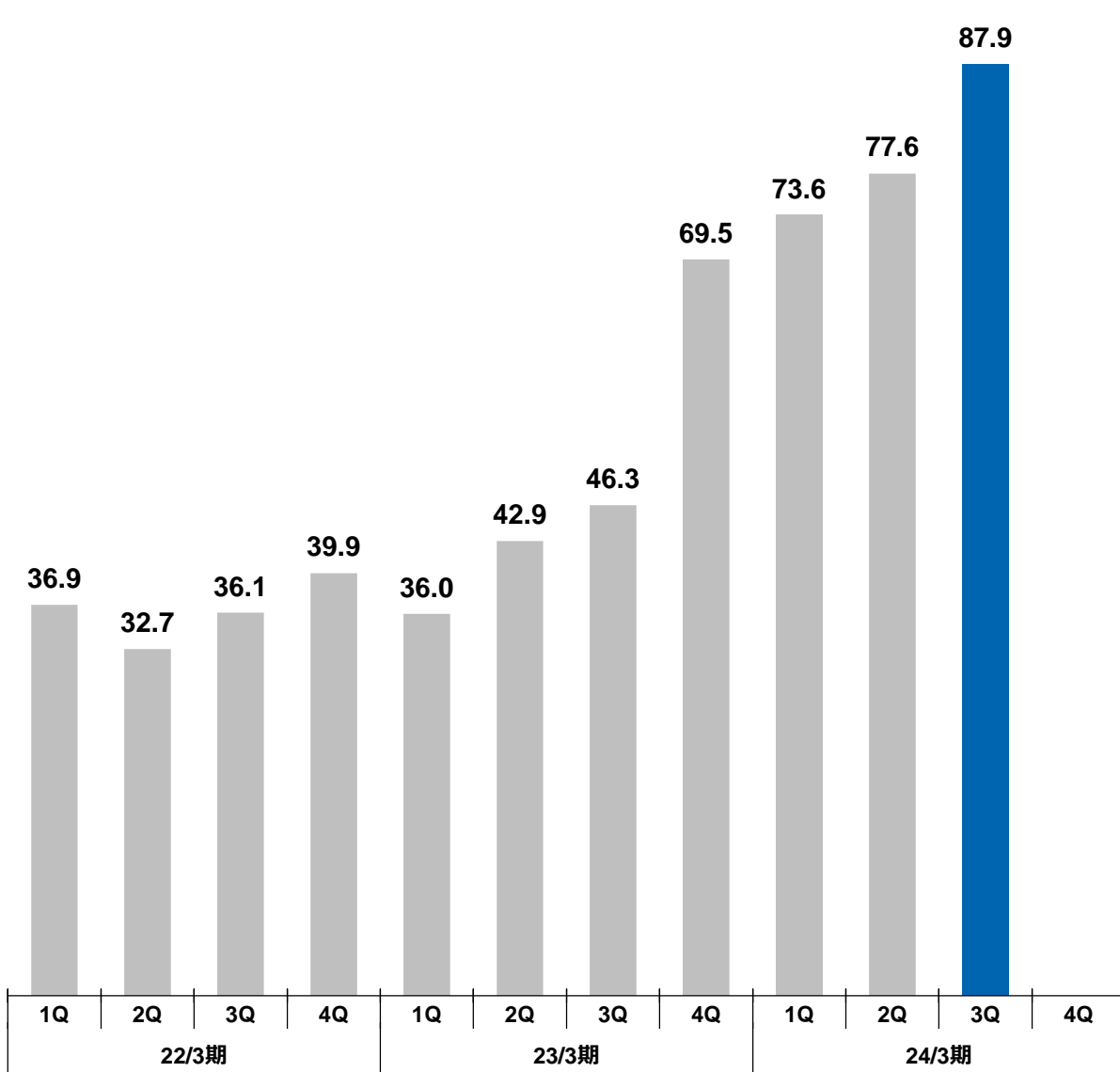
23/3期 特殊要因

	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
為替予約	△0.4	△0.8	△1.2	△0.7	△3.1
その他	-	-	1.7	△3.7	△2.0
合計	△0.4	△0.8	0.5	△4.4	△5.1

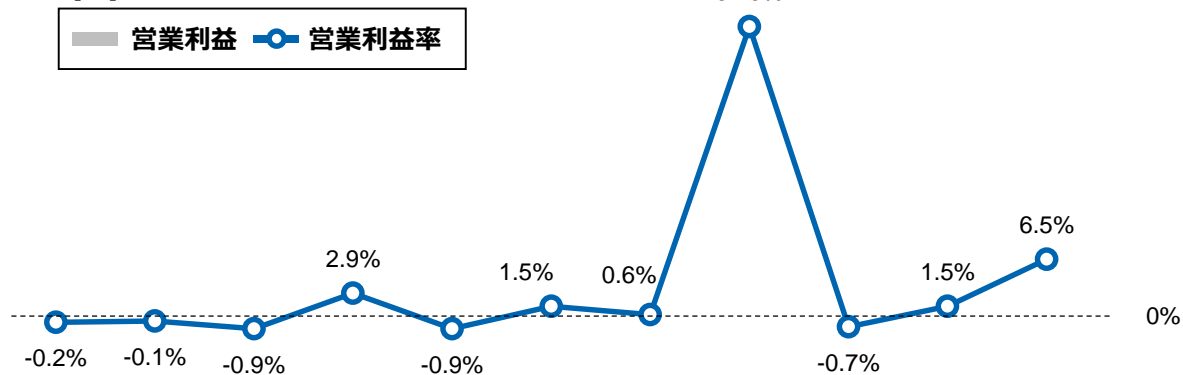


# アクセスソリューションズ セグメント (AS)

売上高 (10億円)

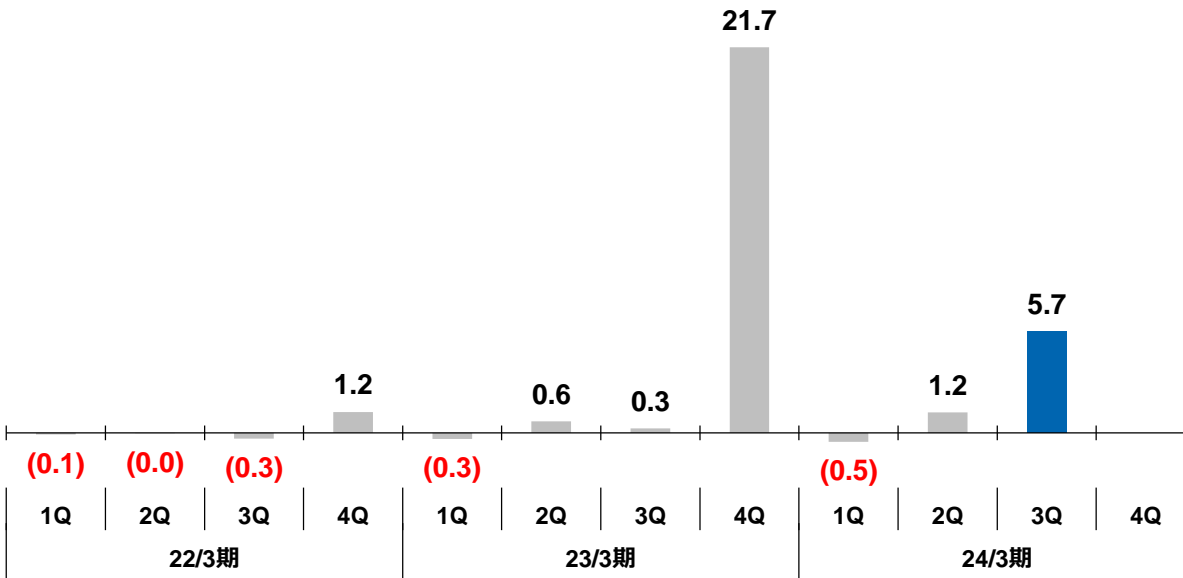


営業利益 (10億円)



23/3期 特殊要因

	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
為替予約	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	20.2	20.2
合計	-	-	-	20.2	20.2





# 親会社の所有者に帰属する四半期利益

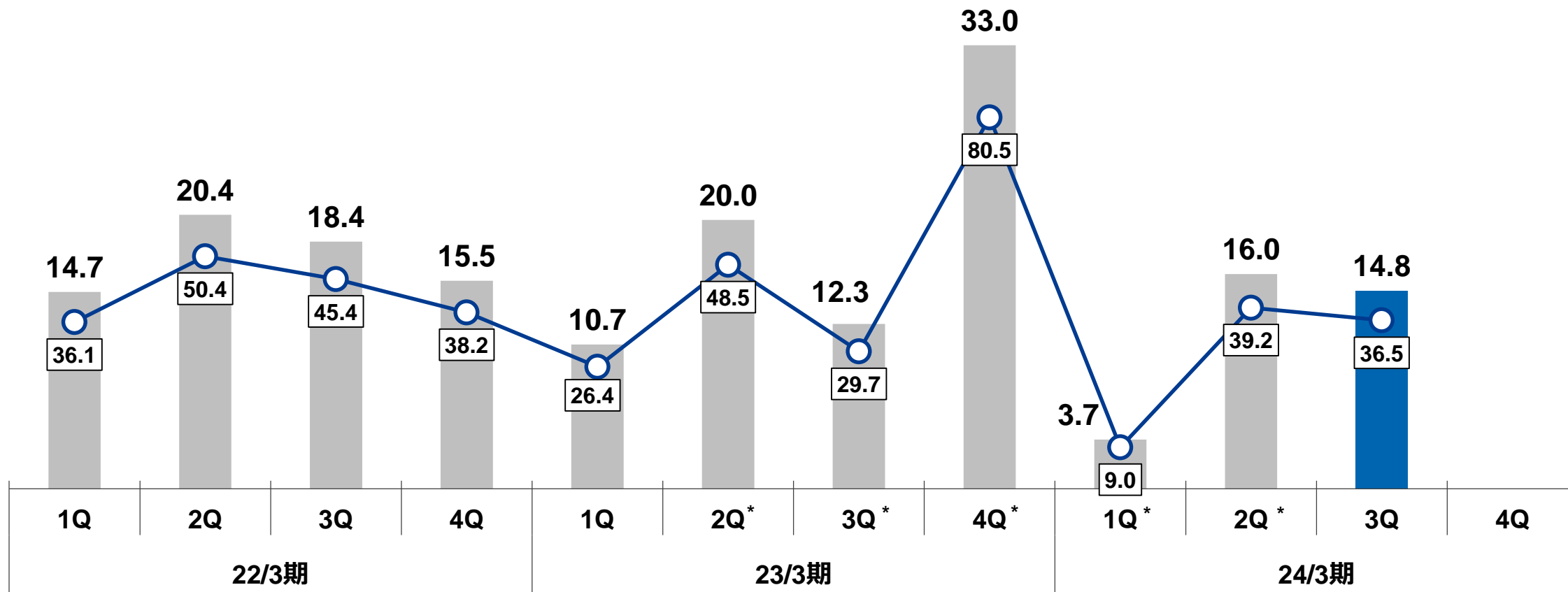
(10億円)

■ 親会社の所有者に帰属する四半期利益    ● 基本的1株当たり四半期利益 (円)

\*①本多通信工業・②ミネベアコネクトのPPA評価完了に伴い遡及修正  
影響額は、

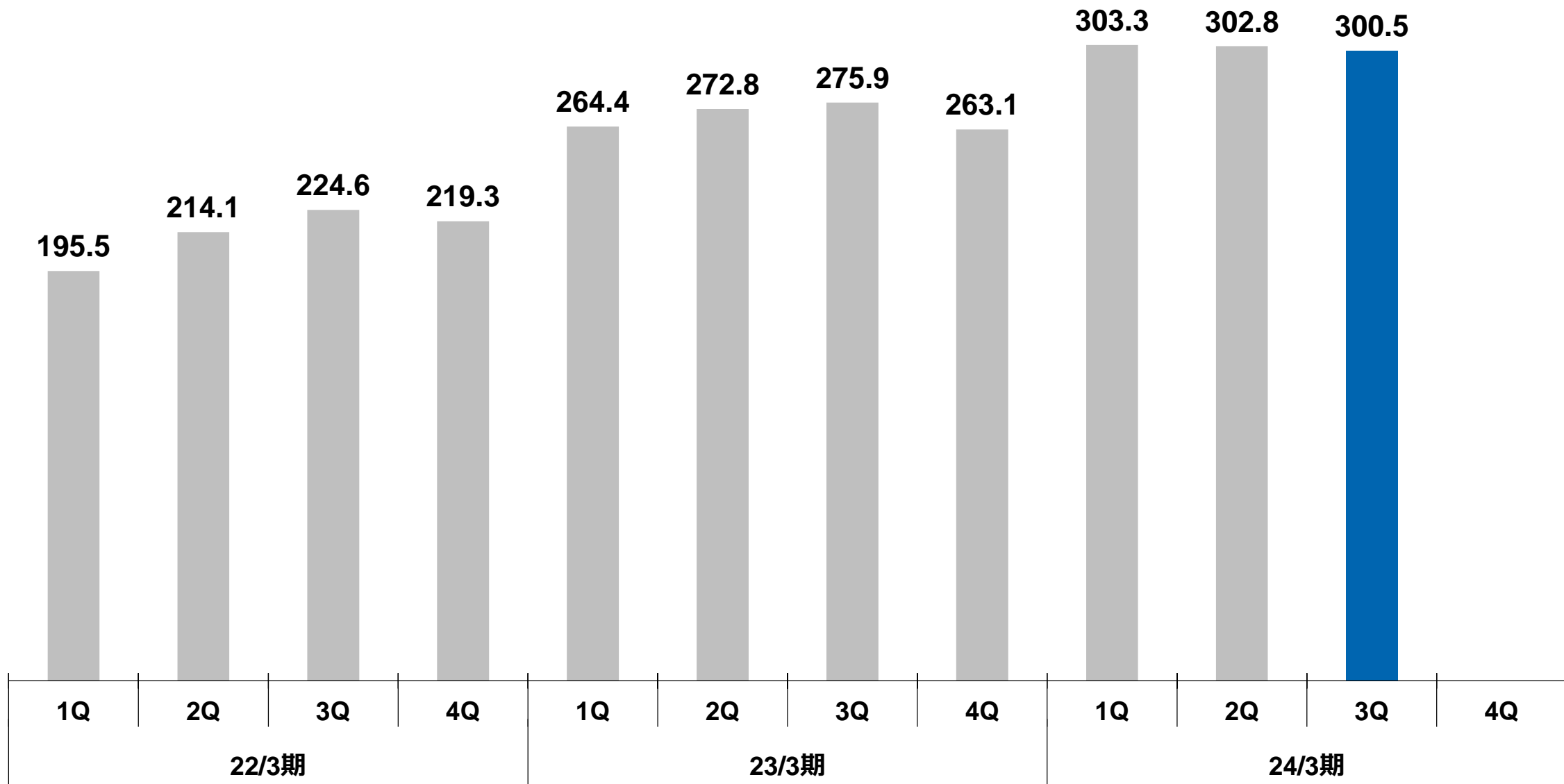
親会社の所有者に帰属する四半期利益: 23/3期2Q△38百万円(①)、3Q△877百万円(①・②)、4Q△40百万円(①・②)、24/3期1Q+4百万円(①・②)、2Q+23百万円(②)

基本的1株当たり四半期利益: 23/3期2Q△0.09円(①)、3Q△2.13円(①・②)、4Q△0.10円(①・②)、24/3期1Q+0.01円(①・②)、2Q△0.06円(②)



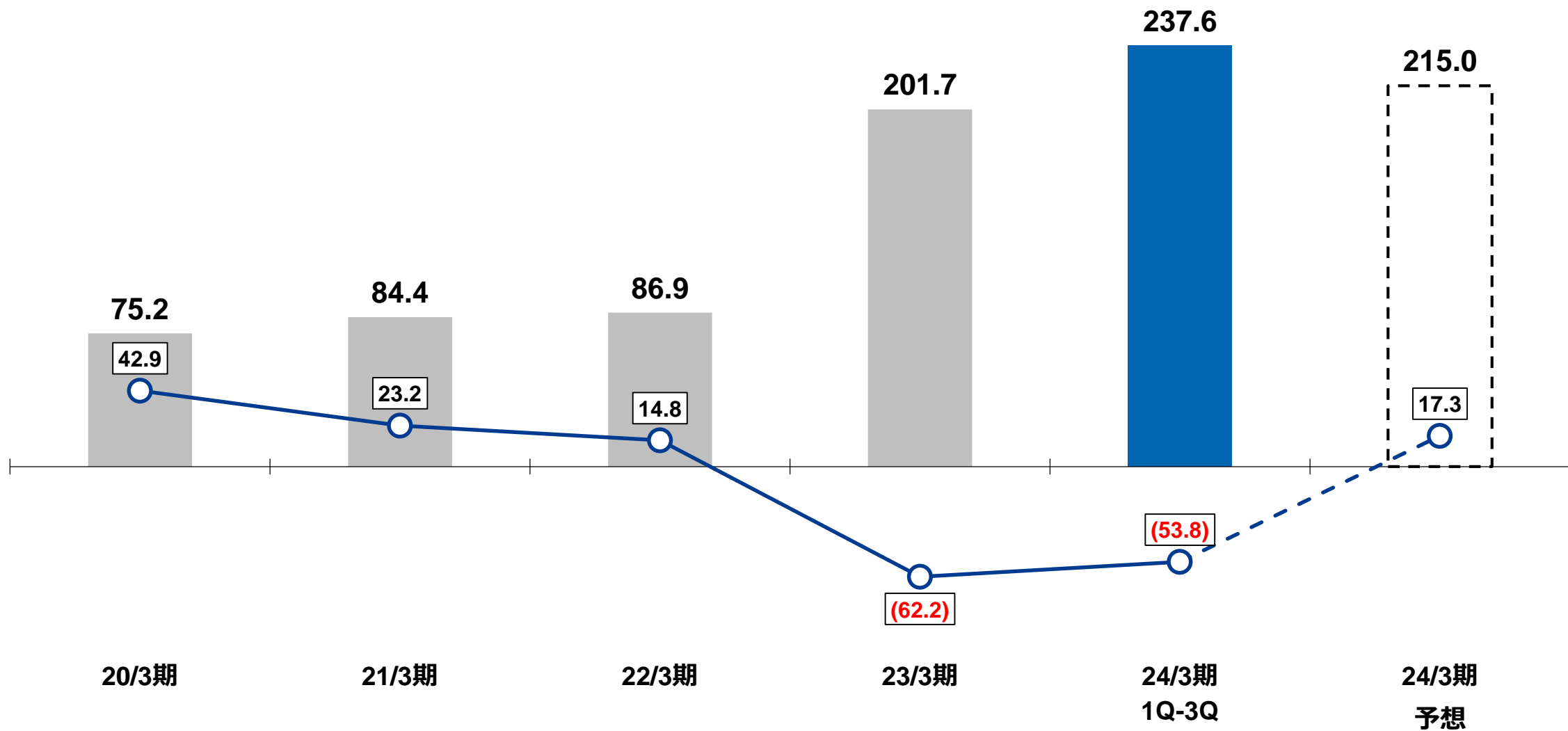
# 棚卸資産

(10億円)



# ネット有利子負債、フリーキャッシュフロー

(10億円) ■ ネット有利子負債\* ○ フリーキャッシュフロー



\*ネット有利子負債：連結財政状態計算書上の「社債および借入金」 - (「現金および現金同等物」+3か月超の定期預金)

## 通期業績予想を修正

(百万円)	2023年3月期 通期	2024年3月期			
		上半期	下半期	通期	前期比
売上高	1,292,203	672,117	727,883	1,400,000	+8.3%
営業利益	100,471	27,226	42,774	70,000	-30.3%
税引前利益	95,069	30,265	39,735	70,000	-26.4%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	76,055	19,646	29,354	49,000	-35.6%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	185.30	48.17	72.48	120.65	-34.9%

為替レート	2023年3月期 通期	2024年3月期 4Q想定
US\$	134.19円	145.00円
ユーロ	139.90円	155.00円
タイバーツ	3.82円	4.10円
人民元	19.68円	20.00円

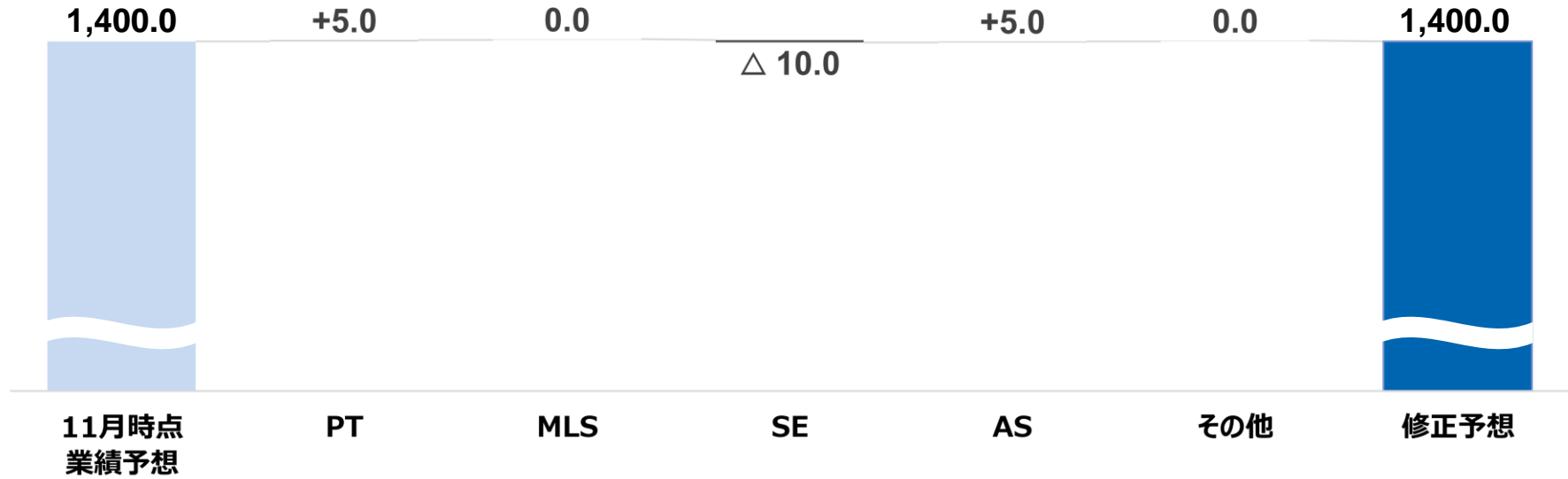
# セグメント別業績予想

(百万円)	2023年3月期	2024年3月期			
	通期	上半期	下半期	通期	前期比
売上高	1,292,203	672,117	727,883	1,400,000	+8.3%
プレジジョンテクノロジーズ	197,300	99,361	110,639	210,000	+6.4%
モーター・ライティング&センシング	366,275	180,469	189,531	370,000	+1.0%
セミコンダクタ&エレクトロニクス	530,079	238,803	251,197	490,000	-7.6%
アクセスソリューションズ	194,699	151,217	173,783	325,000	+66.9%
その他	3,850	2,267	2,733	5,000	+29.9%
営業利益	100,471	27,226	42,774	70,000	-30.3%
プレジジョンテクノロジーズ	42,951	17,250	20,750	38,000	-11.5%
モーター・ライティング&センシング	922	5,445	4,555	10,000	10.8倍
セミコンダクタ&エレクトロニクス	41,644	13,158	20,842	34,000	-18.4%
アクセスソリューションズ	22,302	660	9,340	10,000	-55.2%
その他	△48	△194	△806	△1,000	-
調整額	△7,300	△9,093	△11,907	△21,000	-

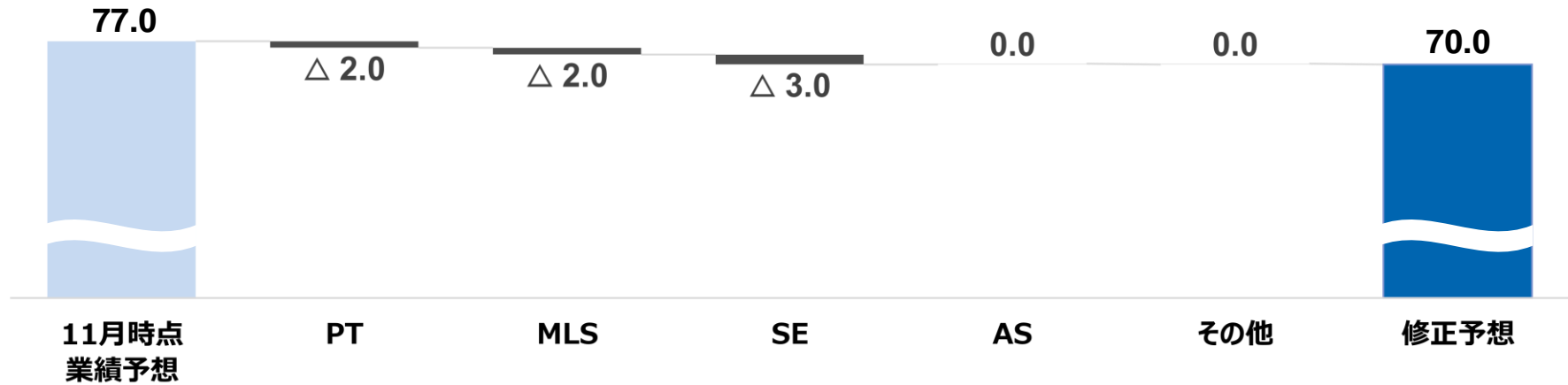
# 通期業績予想 11月時点業績予想からの差異

(10億円)

売上高



営業利益



## 全体

- 24年3月期3Qは、スマートフォン関連の需要落ち込みが主因で未達となった。
- 通期でも、データセンターに加えて、スマートフォン、産業機器、家電など民生機器が予想外に低調で稼働が上がらず、業績見通しを下方修正せざるをえなかった。
- データセンター市場はボトムアウトしたが、回復は弱いものに留まっている。
- 自動車向けは、車の生産台数回復とコンテンツグロースで好調。航空機向けは堅調な成長局面。
- アクセスソリューションズは、第3四半期の営業利益が50億円を上回り、今期業績予想100億円の達成へ。
- 足元の状況は弱いものの、中長期的な事業拡大計画は不変。M&Aでも、EPSを着実に切り上げていく。

## プレジジョン テクノロジーズ (PT)

- データセンターの本格回復待ち。
- 航空機向けは堅調な成長。タイとインドで工場生産能力を増強中。

## モーター・ライティング& センシング (MLS)

- 車載モーターは、市場回復とコンテンツグロースにより事業拡大が加速。
- バックライトは、車載・タブレット向けビジネスで収益確保。

## セミコンダクタ& エレクトロニクス (SE)

- アナログ半導体は緩やかに回復。
- 日立パワーデバイスの事業統合を進め、売上高2,000億円早期実現へ。
- 光デバイスは3Qは北米スマートフォンの需要減を受けて減少。4Qでの挽回は困難。

## アクセスソリューションズ (AS)

- 四半期営業利益50億円まで収益力を向上したものの、他製品の落込はカバーできなかった。
- PMI活動と構造改革による収益性改善が進んでいる。相合製品で加速する。

## 通期営業利益予想は700億円に修正

### ポイント

- 足元の市況は弱含んでいるものの、競争環境等には変化なし。
- 中長期の成長戦略は堅持する。
- 自動化推進プロジェクトにより、  
2024年3月期は約6,000名分の工程を自動化へ。
- 無駄を削り景気回復の利益大幅拡大に備える。

(百万円)	2023年3月期 通期	2024年3月期			
		1Q-3Q実績	4Q予想	通期予想	前期比
<b>売上高</b>	1,292,203	<b>1,053,324</b>	<b>346,676</b>	<b>1,400,000</b>	+8.3%
<b>営業利益</b>	100,471	<b>51,253</b>	<b>18,747</b>	<b>70,000</b>	-30.3%
<small>親会社の所有者に帰属する</small> <b>当期利益</b>	76,055	<b>34,400</b>	<b>14,600</b>	<b>49,000</b>	-35.6%
<small>基本的1株当たり</small> <b>当期利益(円)</b>	185.30	<b>84.58</b>	<b>36.07</b>	<b>120.65</b>	-34.9%



航空機市場は、2025年3月期中にはコロナ前の水準に回復へ  
堅調な成長市場において、圧倒的な生産力と社会的課題解決製品で収益性を向上

## 主なポイント

### 1 生産機数はコロナ前の水準に回復へ

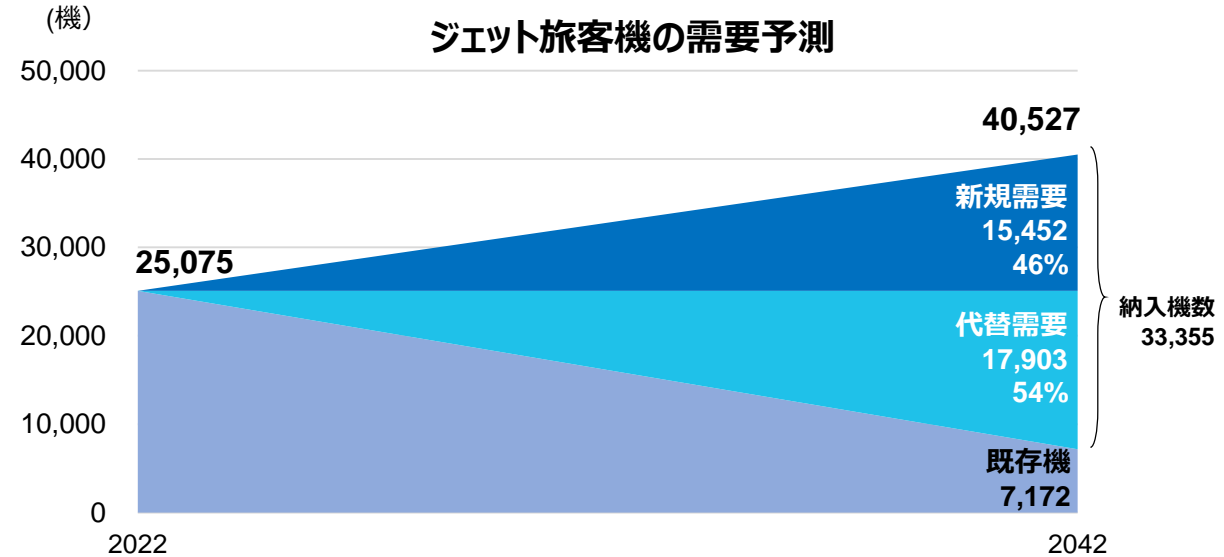
- 2025年3月期中にはコロナ前の生産機数を超える見通し。

### 2 堅調な成長市場でビジネス機会増

- 世界の商用機は、置き換え含めて需要拡大。
- 移動需要増加に伴い、有償旅客移動距離(RPK)は今後20年でコロナ前の2倍以上に延伸。
- 環境対応機材への貢献。

### 3 圧倒的な生産力と社会課題解決製品

- 工場生産能力拡大。
  - RO-RAの経営統合（2023年12月経営統合完了）
  - Mach Aeroインド工場第3棟（2024年9月稼働開始予定）
  - ロップリ工場拡張 24,000㎡（2025年より順次）
- グループ会社の相合力を結集し新規大型ビジネスを獲得。
  - CEROBEAR、C&A Tool Engineering、Mach Aero
- 社会的課題解決製品。
  - 低燃費エンジン・電動航空機関連製品



出典：日本航空機開発協会



RO-RA製  
リンクロッド



2023年12月経営統合したRO-RA 外観

## RO-RA Aviation Systems GmbHの概要

名称	RO-RA Aviation Systems GmbH		
所在地	Gewerbepark 8, 4861 Schoerfling am Attersee, Austria		
代表者の役職・氏名	Helmut Wiesenberger (Managing Director)		
事業内容	航空宇宙市場向けリンクロッドアッセンブリ製品の設計・製造・販売 航空宇宙エンジン用高精度機械加工部品の設計・製造・販売		
資本金	250千ユーロ		
設立年月日	2006年2月27日		
大株主及び持株比率	Aero Products Invest GmbH 100%		
最近3年間の経営成績及び財政状態			
	20/12期	21/12期	22/12期
売上高	21百万ユーロ	18百万ユーロ	28百万ユーロ

## グローバルニッチトップと相乗効果で売上高2,000億円・営業利益率30%を目指す

### 主なポイント

#### 1 日立パワーデバイス

- ・ 統合準備は順調に進捗中。
- ・ 統合後の損益インパクト（イメージ）  
売上高400億円、営業利益40億円

#### 2 技術の相合活動

- ・ グローバルニッチトップ製品で差別化。
- ・ 半導体技術者は総勢400名へ。
- ・ 相合活動プロジェクト（例）  
内製パワー半導体拡充・高圧IC  
モーター製品・電源製品の事業領域の拡大  
制御アルゴリズム深化でモーター性能向上  
省電力化・静音化など  
その他、医療向けなどへのラインナップ拡大

### アナログ半導体生産体制



## 2024年3月期は営業利益100億円達成に向け、ターンアラウンド実現へ

### 主なポイント

- 1 3Q営業利益は57億円達成。  
自動車生産台数の回復とともに、  
PMI・構造改革の成果が結実。
- 2 Tier1ポジションを活用し引合・受注を継続拡大。
- 3 次の成長の柱となる相合・高付加価値製品の  
開発を加速。

#### ▶ フラッシュハンドル

デザイン性や空力性能を向上。



#### ▶ eラッチ

ドアを施錠する装置。



#### ▶ パワーロージャースystem

##### ● CSD (Compact spindle drive)

バックドアの両端に搭載し電動開閉。



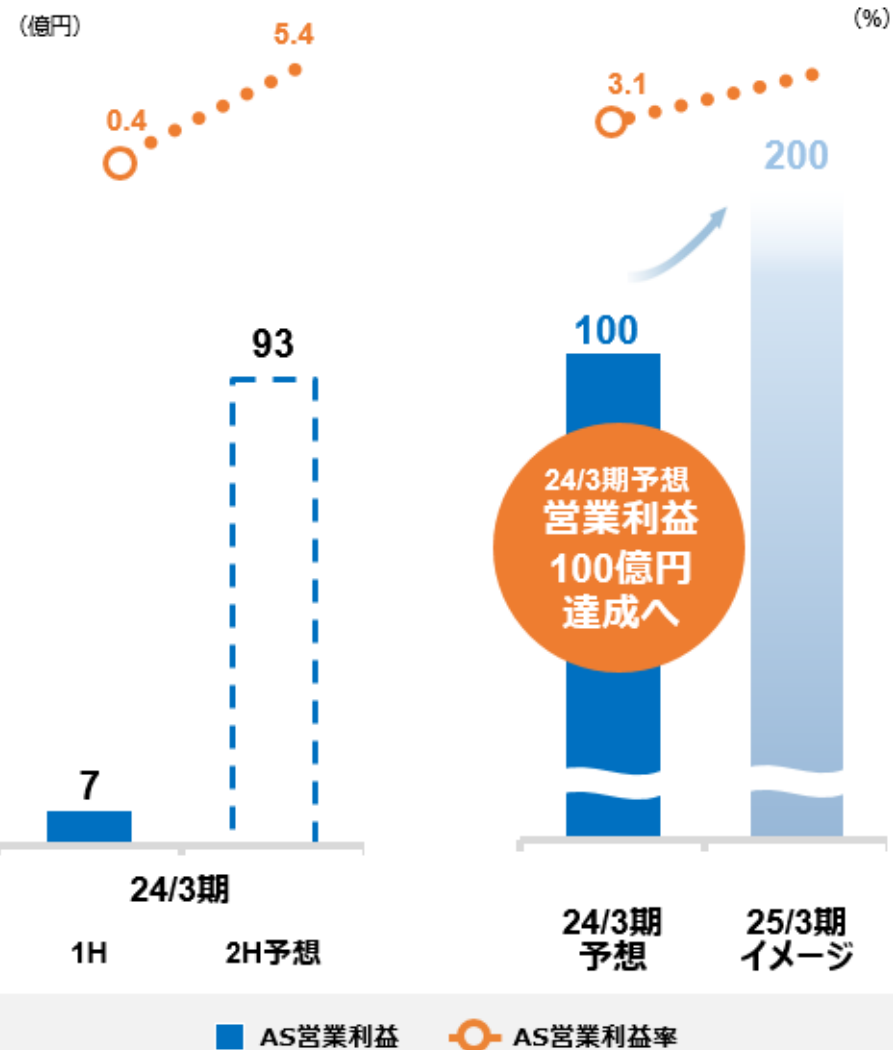
##### ● CPD (Charge port door)

EVの給電口を開閉。



#### ▶ ドアミラー

複合化の需要高まる。





## トップダウンで徹底的な製造改革に着手中 2024年3月期は約6,000名分の工程を自動化へ

### 主なポイント

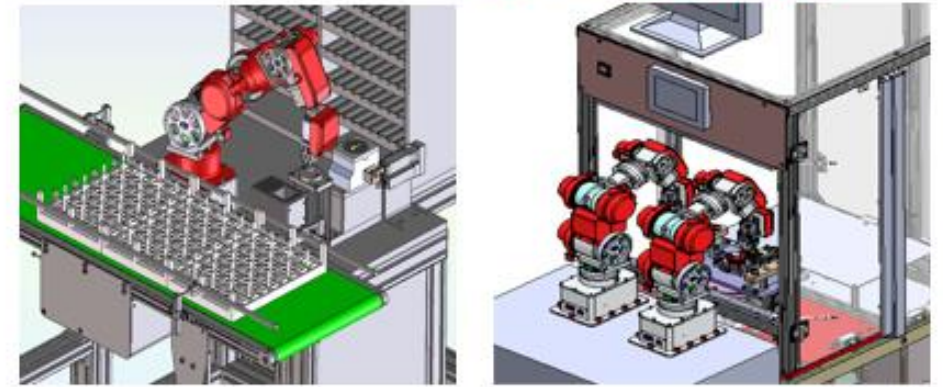
#### 1 製造業として抱えている課題を解決

- 製造業としての課題  
製造現場で働く労働力の確保  
世界的な賃金上昇  
次世代への製造技術伝承  
品質の安定・向上 など
- グループ全社の工程を分類・類型化し自動化する。  
2024年3月期は約6,000名分  
2026年3月期まで累計約13,000名分の工程を自動化

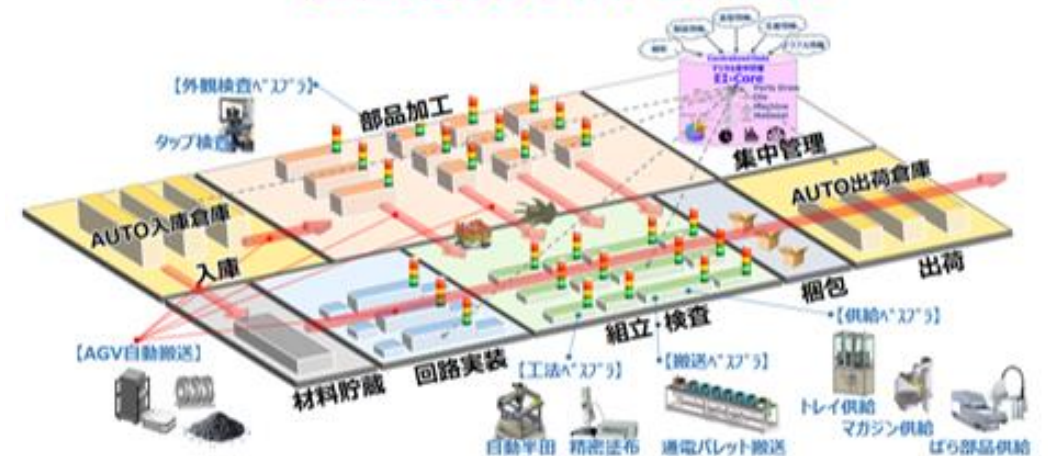
#### 2 AI/DXを駆使した製造システムの構築

- 当社独自の課題  
経営統合した会社は、それぞれ製造思想が異なっている
- 改善手法やITツールを統一して世界標準を構築する。
- トップダウンで製造現場の無駄を省く。

### Pick & Placeと画像処理(例)



### 一気通貫ワンフロアモノづくり



## 国内外でカーボンニュートラルへの取り組みを加速

## 1 千歳事業所 自己託送

- 国内初\* 半導体工場として生産活動に太陽光発電を活用。  
北海道5拠点に大規模システムを設置。

発電量：合計約16.7GWh/ CO<sub>2</sub>排出量削減：9,020t-CO<sub>2</sub>/年

\* 日本における初の半導体前工程工場による太陽光発電電力活用による生産活動（ワールドキネクトコーポレーション調べ）



## 2 カンボジア 太陽光発電事業

- カンボジア鉱業エネルギー省と覚書を締結。  
同国政府認定電力事業者SchneiTec社と協働し、太陽光発電事業を  
2026年3月期中に操業開始予定（カンボジア プルサット州クラコー地区）。

現地法人の定款を変更予定

- カンボジア国内の既存工場、および将来の工場拡張時に  
100%再生可能エネルギーによる稼働を目指す。

発電量：合計約70GW h (完成時) / CO<sub>2</sub>排出量削減：32,000t-CO<sub>2</sub>/年 (完成時)



SchneiTec社にて設置済の太陽光発電システム

## 3 フィリピン 電力調達契約（PPA）

- 自家発電に加えて、再生可能エネルギー電力調達契約を締結。  
2024年2月よりセブ2工場でカーボンニュートラル100%達成。



# EPS成長率及びROE

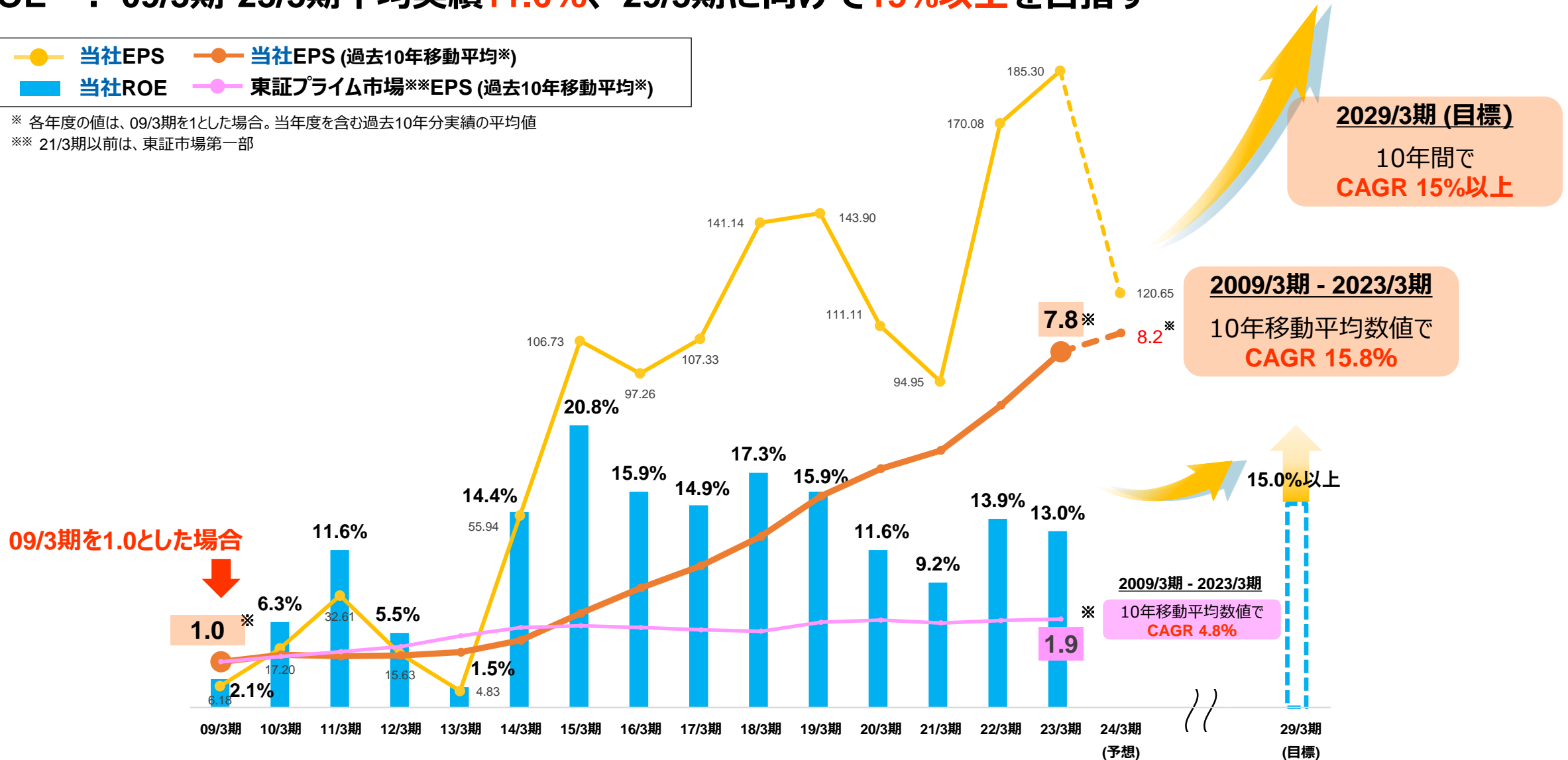
EPS : 09/3期-23/3期はCAGR15.8%、29/3期に向けてCAGR15%以上を目指す

ROE : 09/3期-23/3期平均実績11.6%、29/3期に向けて15%以上を目指す

(円) ● 当社EPS ○ 当社EPS (過去10年移動平均\*)  
■ 当社ROE ◆ 東証プライム市場\*\*EPS (過去10年移動平均\*)

\* 各年度の値は、09/3期を1とした場合。当年度を含む過去10年分実績の平均値

\*\* 21/3期以前は、東証市場第一部



## 配当金

配当は前年度水準を維持する予定

## 24年3月期 配当

23年3月期 配当 (ご参考) 年間配当40円 (中間配当20円 期末配当20円)

中間配当 **20** 円/株期末配当 (予定) **未定** → **20** 円/株

## 自己株式の取得

今後も機動的に実施していく

## これまでの累計実績 (09年3月期以降)

- ①取得した株式の総数： 51,363 千株
- ②取得価額の総額： 76,665,317 千円
- ③平均取得単価 (②÷①)： 1,493 円

(ご参考)

## 24年3月期実績

8月7日から10月27日まで(約定ベース)で4,000千株を  
9,643,584千円で取得いたしました。(2023年10月30日リリース)

## 自己株式の活用

用途	株式数
ミツミ電機経営統合時の株式交換	△ 20,000 千株
ミツミ電機より承継したユーロ円転換社債の転換	△ 9,661 千株
取締役退任時のストックオプション権利行使	△ 88 千株
役員持株信託への権利行使	△ 10 千株
<b>合計</b>	<b>△ 29,759 千株</b>

2023年12月末時点の自己株式数： 22,693千株





当資料で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベアミツミ株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

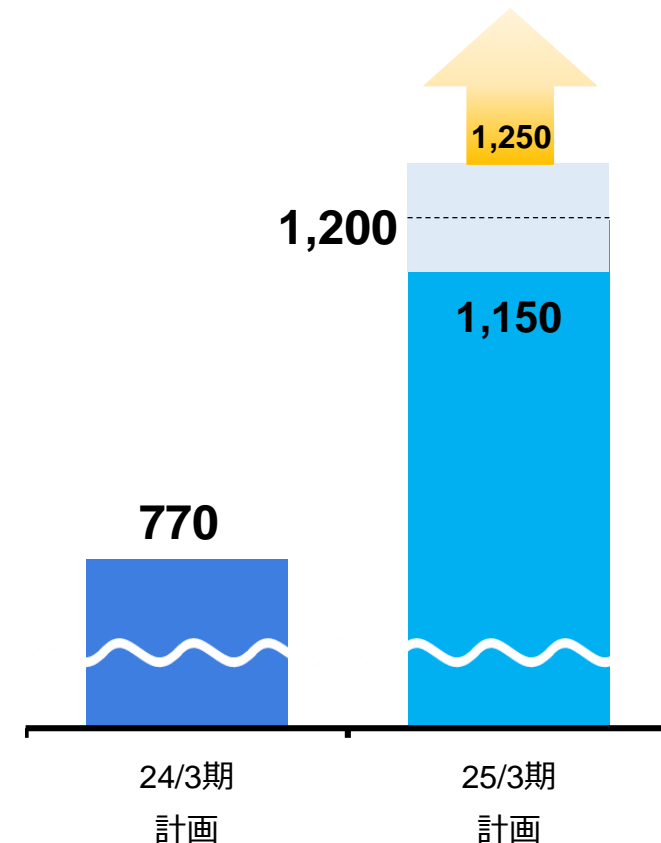
# 參考資料

24/3期 通期営業利益予想比

## 市場回復時点のイメージ

<b>ベアリング</b> (航空機関連含む)	データセンター市場等の回復	<b>+ 130~170</b> 億円
<b>モーター</b>	スピンドル及び非車載モーター等の回復	<b>+ 90~110</b> 億円
<b>アクセス</b>	自動車市場完全回復 + PMI効果	<b>+ 90~110</b> 億円
<b>半導体</b>	市況回復 + 滋賀工場 黒字化 + 日立パワーデバイス等	<b>+ 70~90</b> 億円
<b>合計</b>		<b>+ 380~480</b> 億円

営業利益のイメージ (億円)

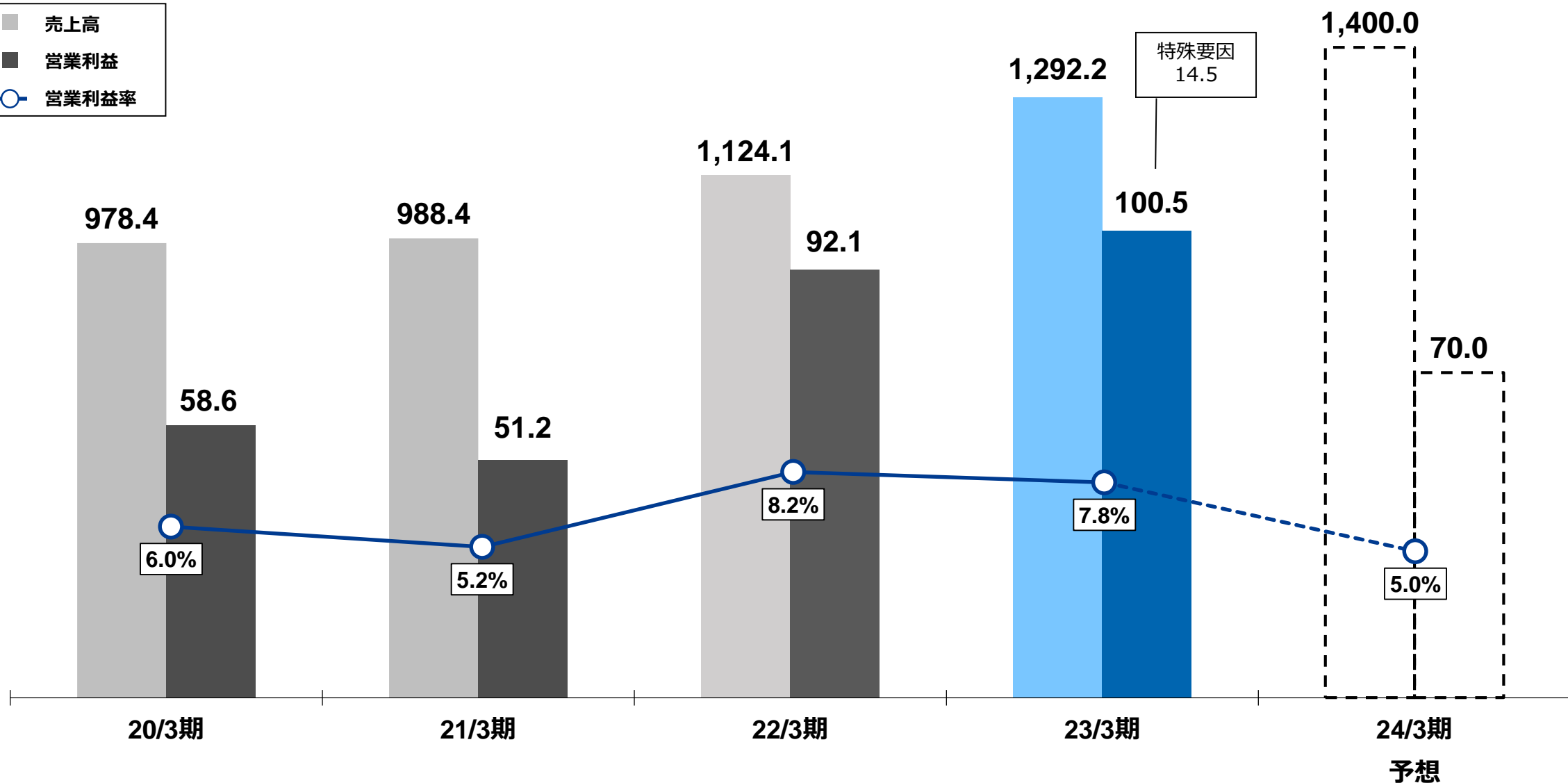
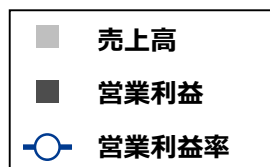


上記に加えた更なる上振れ要因

**車載モーター・車載バックライト**

# 売上高、営業利益、営業利益率

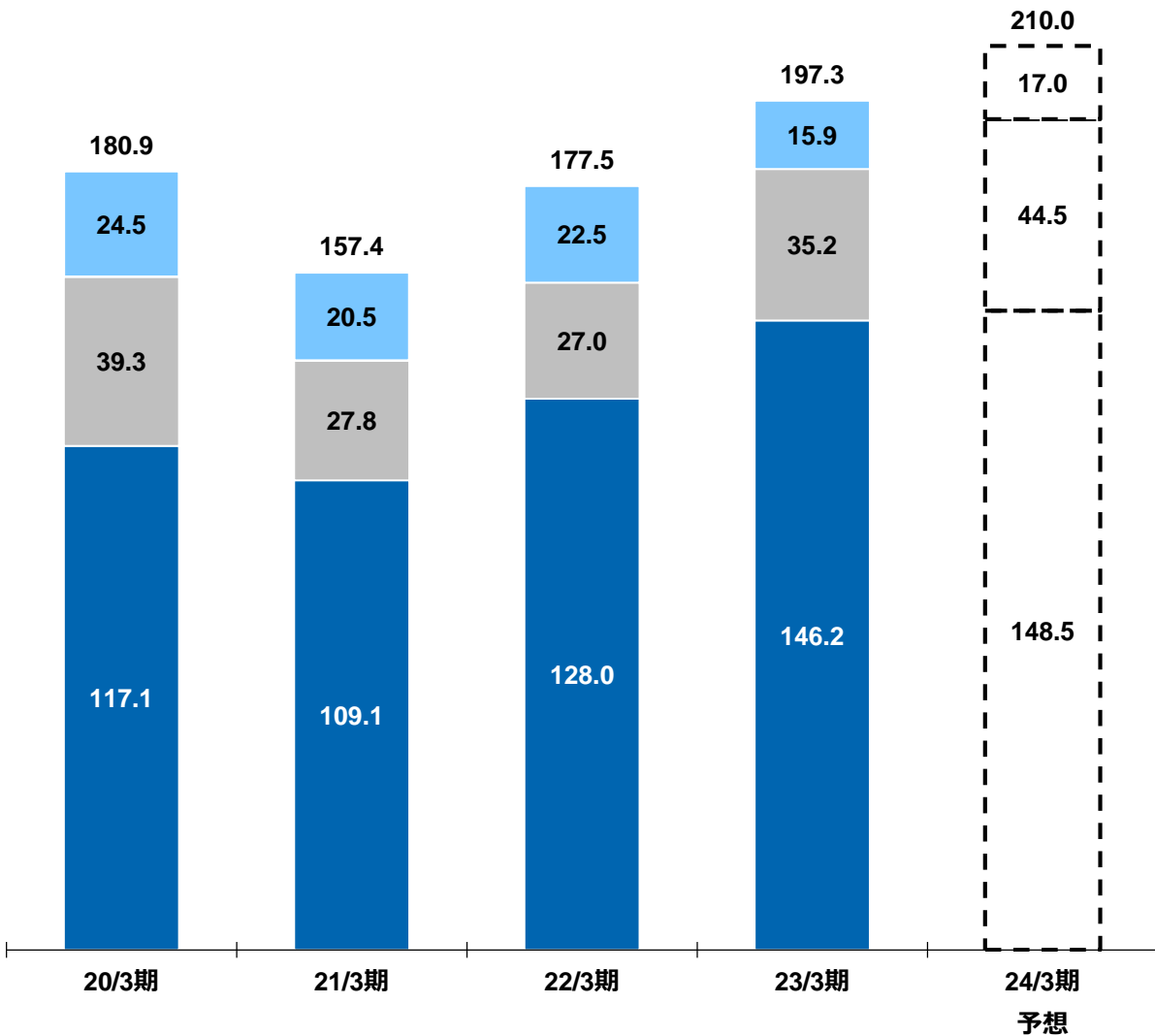
(10億円)



# プレジジョンテクノロジーズ セグメント (PT)

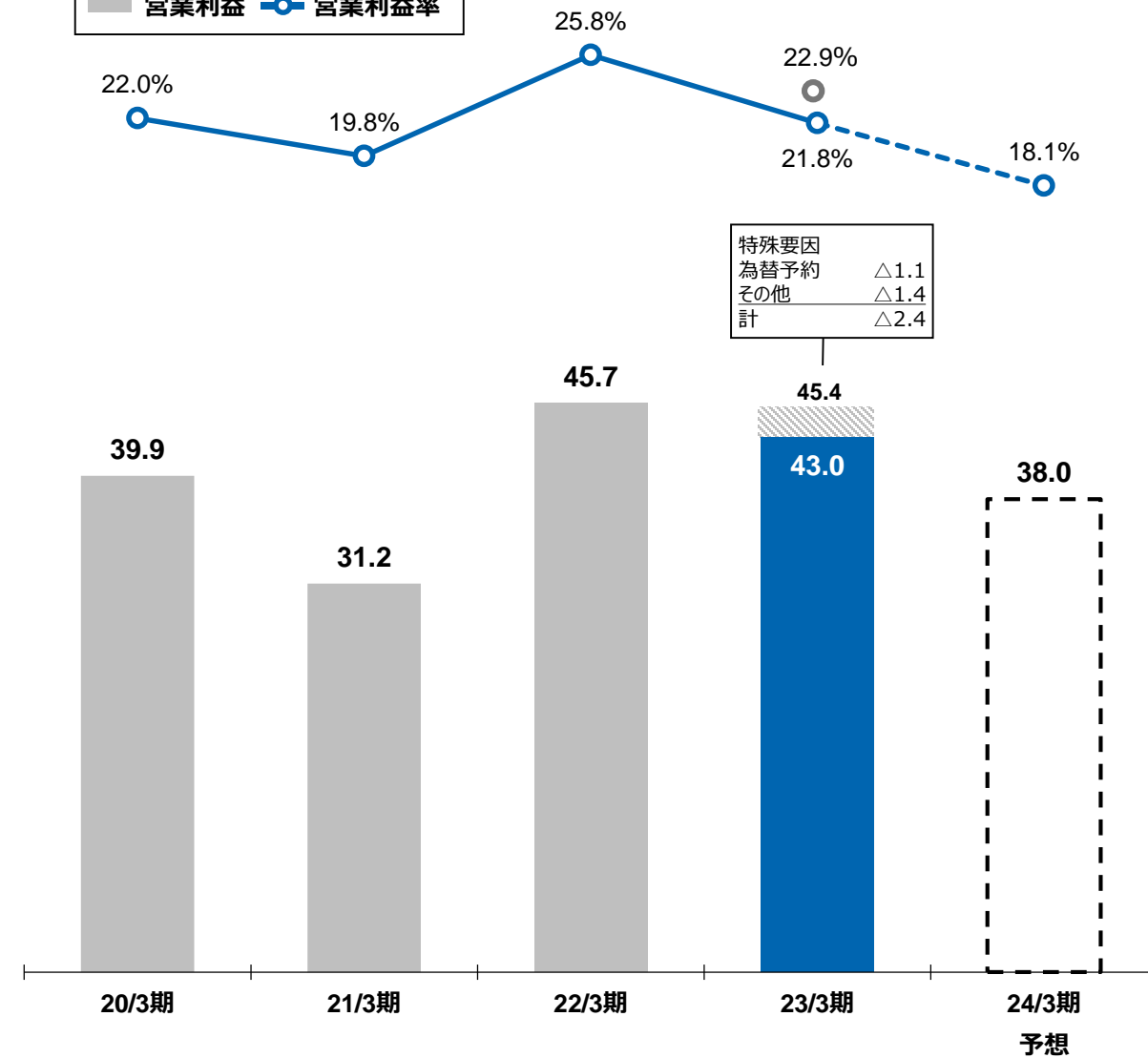
## 売上高 (10億円)

■ ボールベアリング ■ ロッドエンド・ファスナー ■ ピボットアッセンブリー



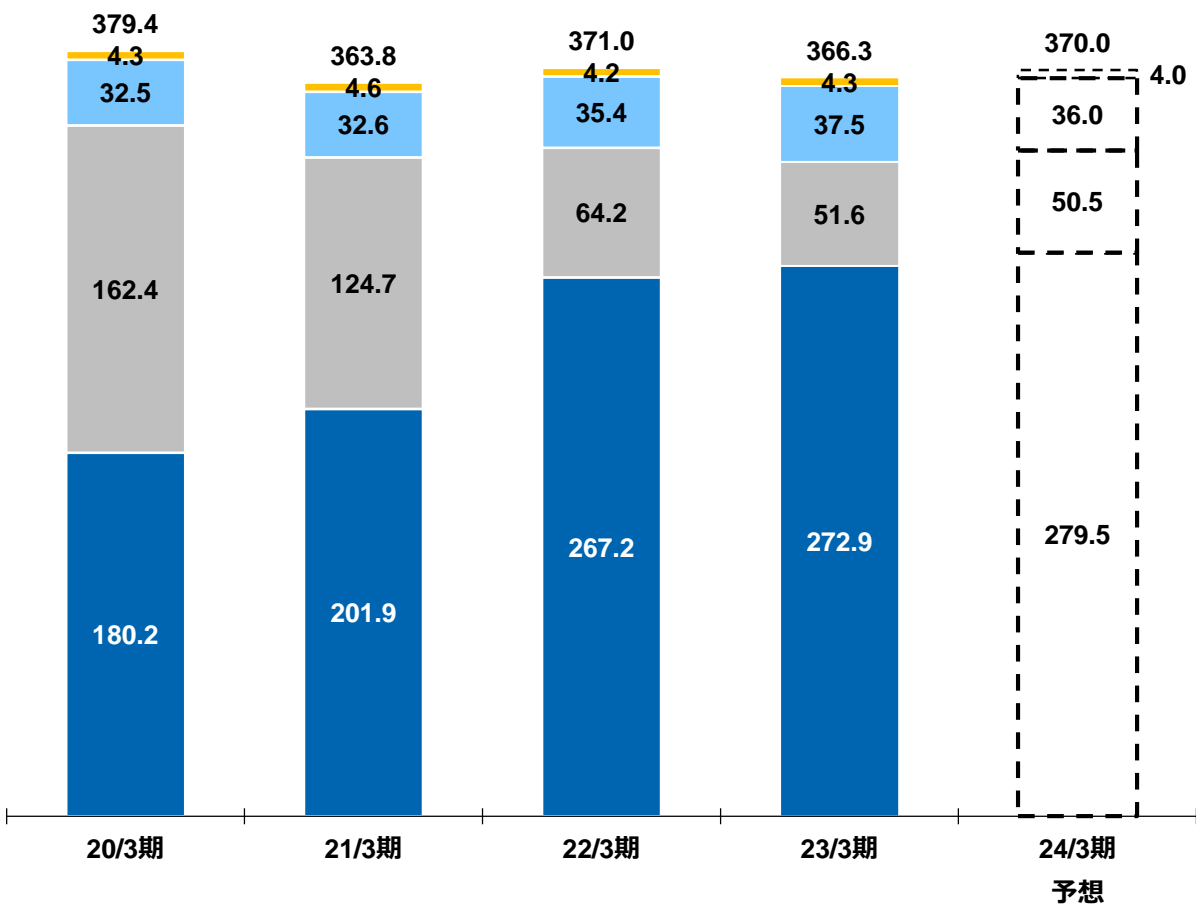
## 営業利益 (10億円)

■ 営業利益 ○ 営業利益率

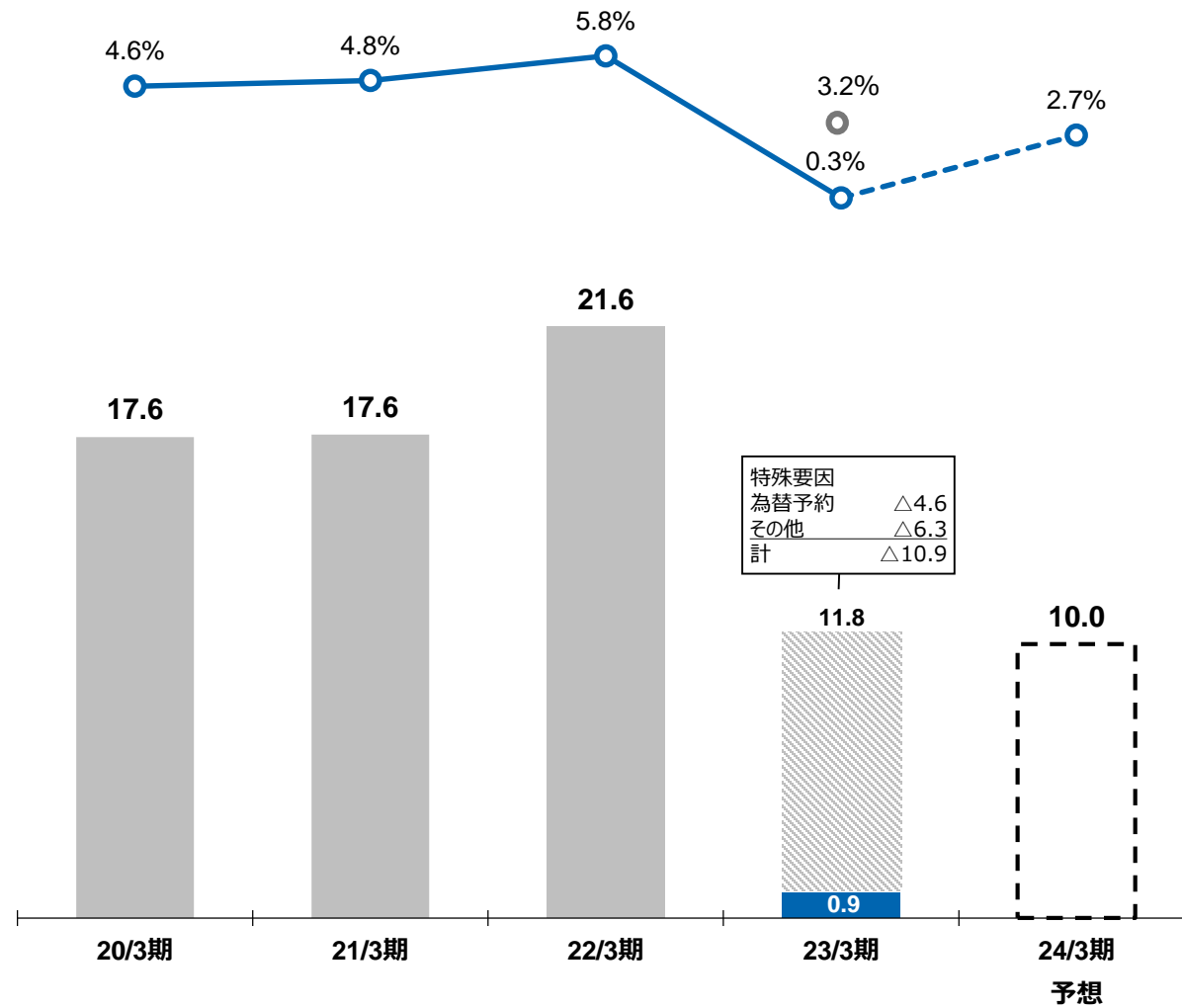


# モーター・ライティング&センシング セグメント (MLS)

売上高 (10億円)

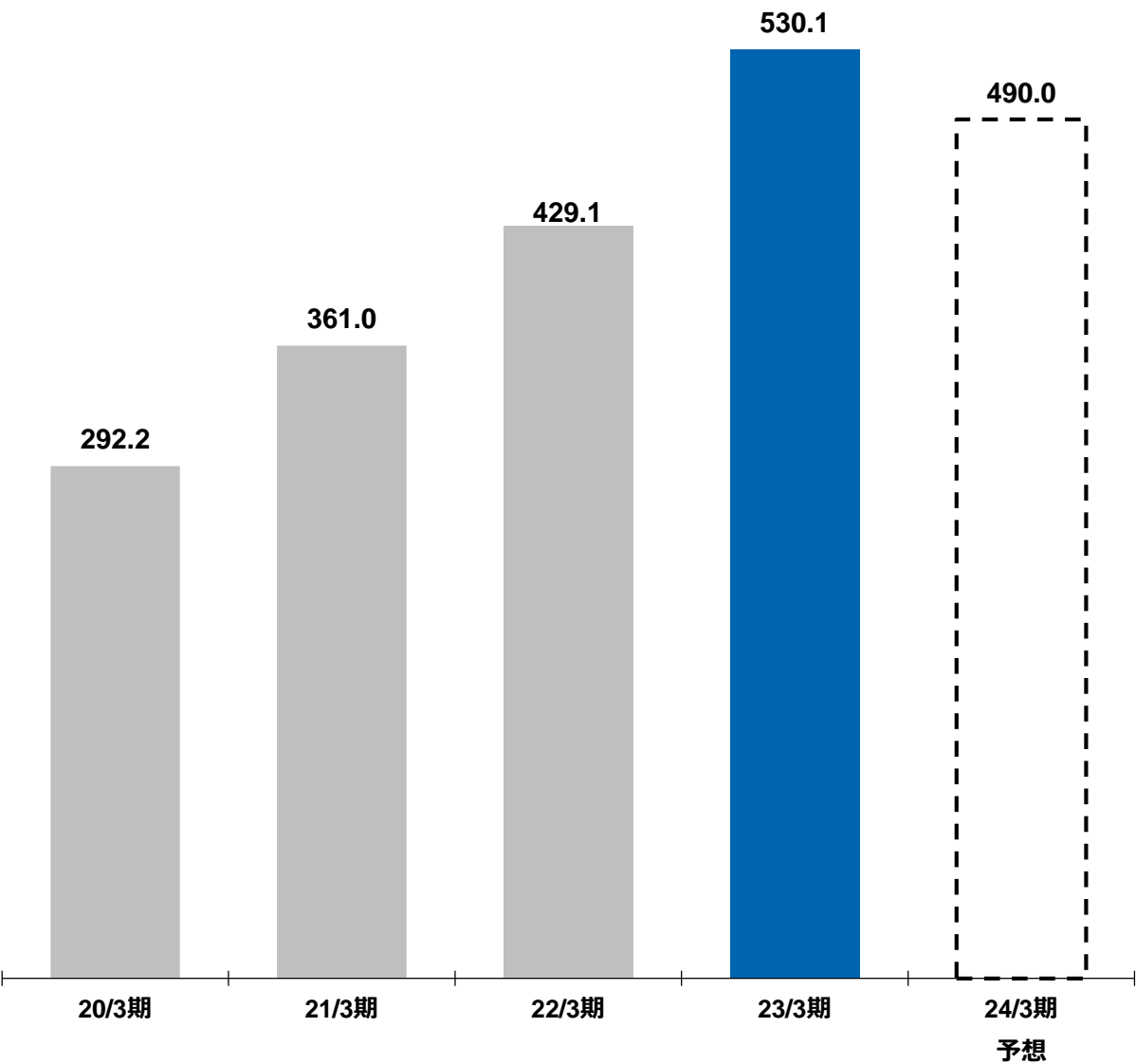


営業利益 (10億円)

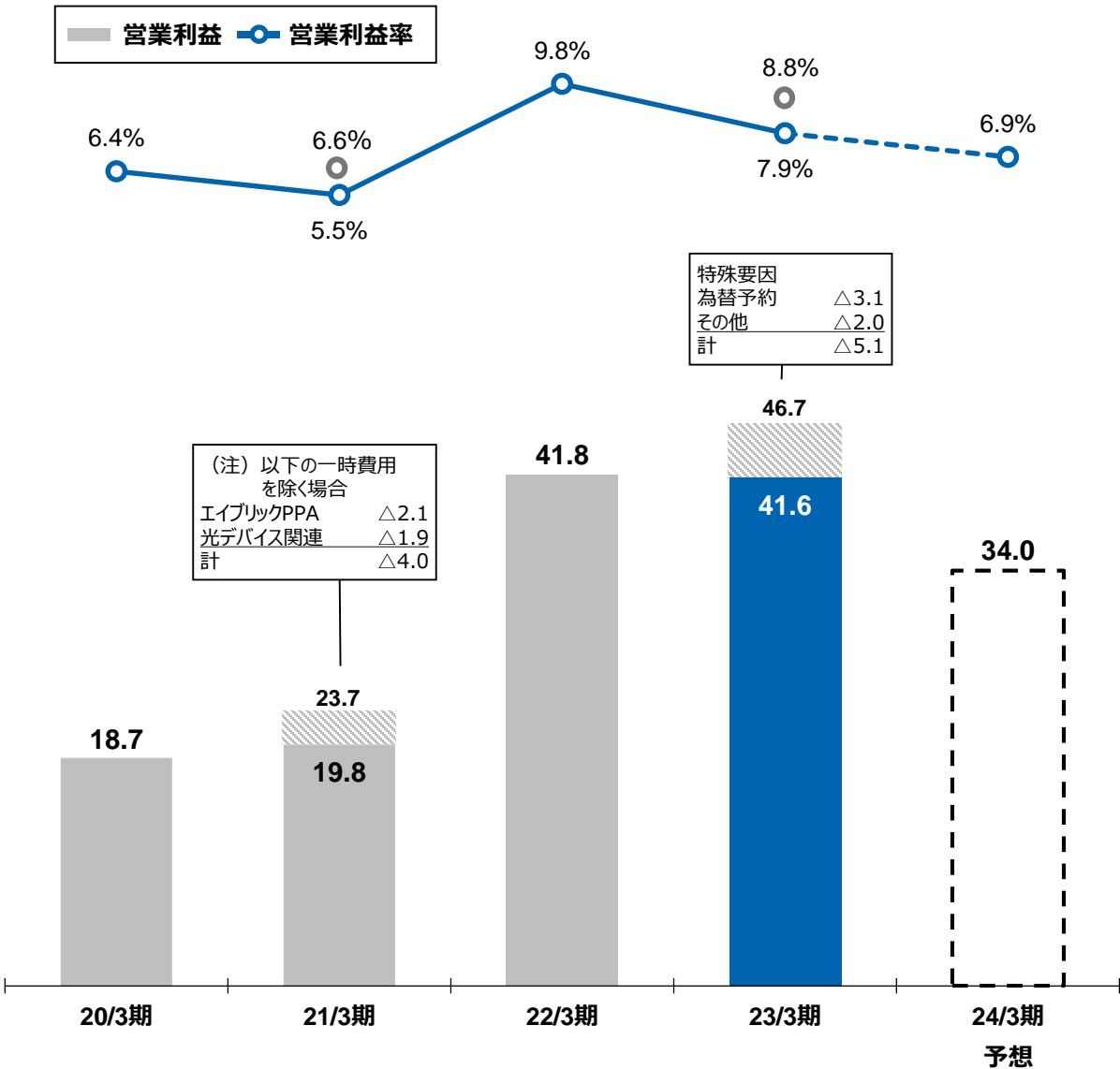


# セミコンダクタ&エレクトロニクス セグメント (SE)

売上高 (10億円)



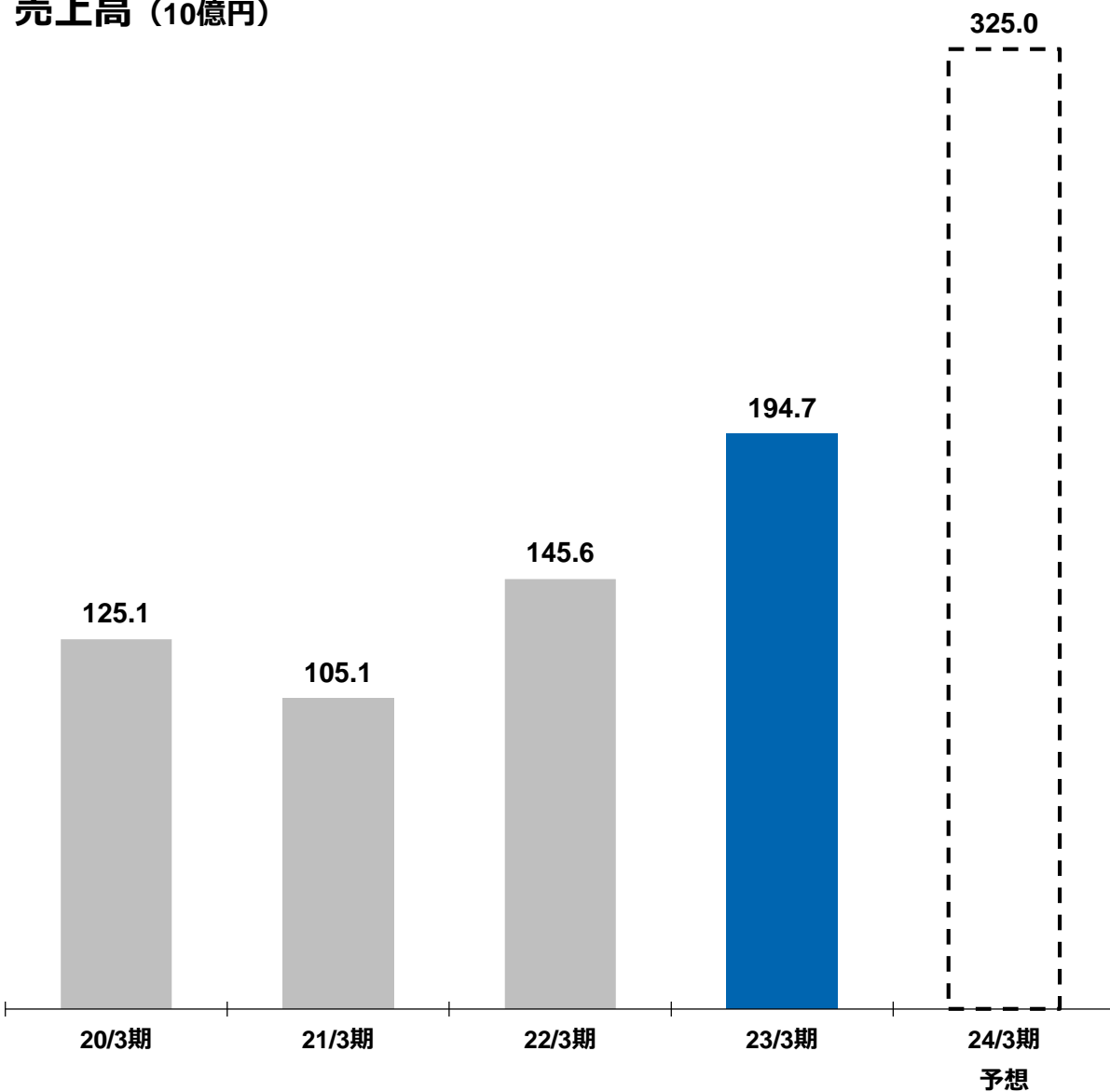
営業利益 (10億円)



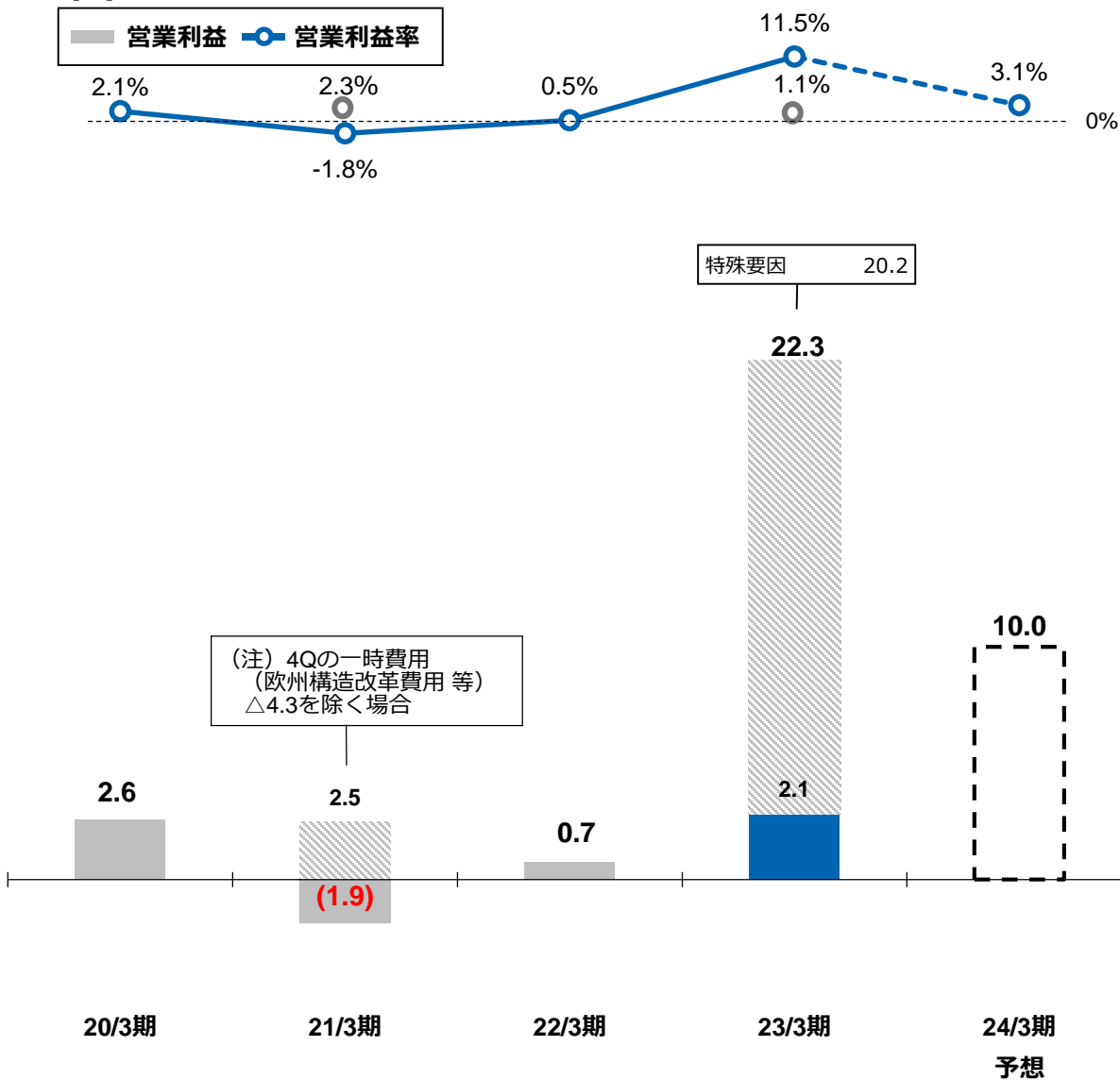
# アクセスソリューションズ セグメント (AS)

決算期変更に伴い  
20/3期は2019年1-3月  
の数値を含まず

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)

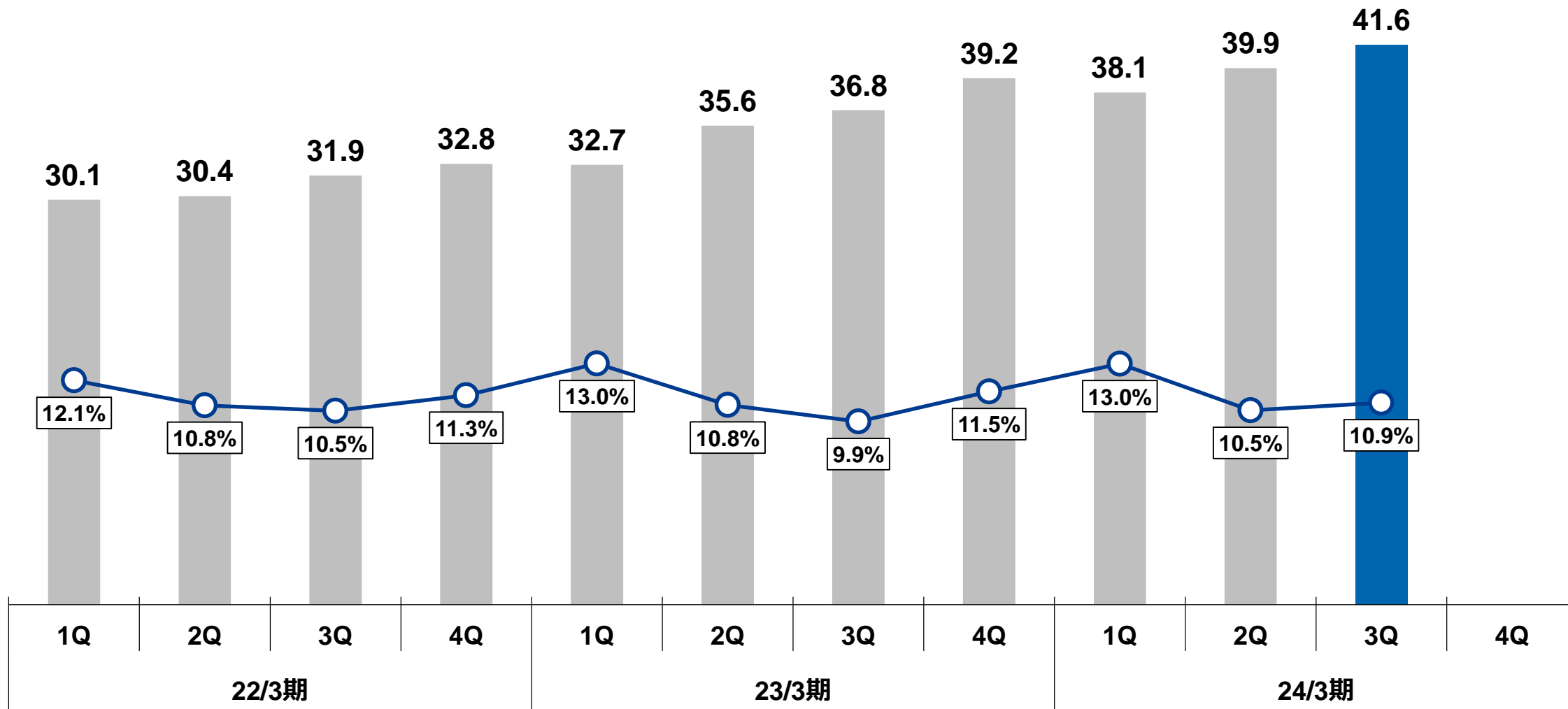




# 販管費

(10億円)

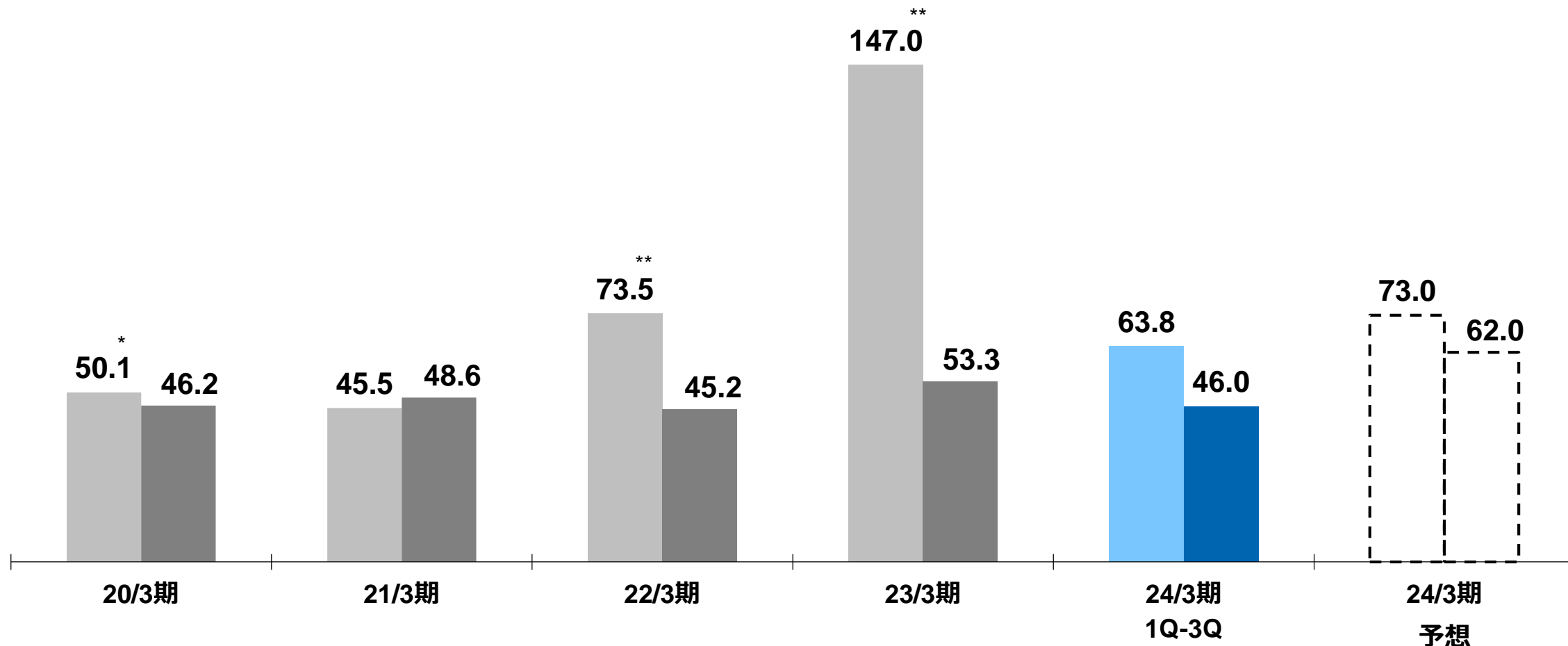
■ 販管費    ○ 売上高販管費比率



# 設備投資額・減価償却費

(10億円)

■ 設備投資額 ■ 減価償却費



\*20/3期 設備投資額には、IFRS16号適用開始日に増加したリース資産は含まれていません。  
\*\*22/3期、23/3期の設備投資額には、新本部ビル取得費用が含まれています。

# ROIC (投下資本利益率)

アクセスソリューションズ (AS) は19/3は経営統合前の参考値でJGAAP、全社には含めない。

$$\text{ミネベアミツミ版 ROIC} = \frac{\text{NOPAT (営業利益+特別損益)} \times (1 - \text{税率})}{\text{投下資本 (受取手形+売掛金+棚卸資産+固定資産-支払手形-買掛金)}}$$

セグメント別で管理できる事業資産 (売上債権・債務、棚卸資産、固定資産) で算出

